

令和 2 年度版
日進市環境基本計画年次報告書

令和元年度の環境の状況並びに計画の実施状況



令和 3 年 1 月

日 進 市

- 目次 -

第1部 計画の基本的事項

1	計画の趣旨と推移	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画期間	1
4	対象とする環境まちづくりの範囲と計画概要	2
5	分野別計画	2

第2部 計画（分野別計画）の実施状況

1	令和元年度の実施状況	4
2	分野別計画 A～Lの実施状況	7
A	川や池の水と水辺	8
B	水の風景・水資源	12
C	里山と息づく動植物	16
D	農のある暮らし	20
E	緑のネットワーク	24
F	生活環境	28
G	まちなみ・まちかど	32
H	みちと足	36
I	暮らし全般・エネルギー	40
J	生活と廃棄物	44
K	コミュニティ	48
L	遊びと学び	54

参考資料

河川水質調査	62
河川底質調査	64
ため池水質調査	65
大気汚染物質調査	66

第1部 計画の基本的事項

1. 計画の趣旨と推移

本市では、多くの市民、子ども及び市職員との参画、共働により、今ある大切な環境を保全しながら、誰にとっても暮らしやすく誇りと愛着を感じることができる「日進」となるよう、環境の将来像とその将来像の実現のための具体的な行動をまとめた、「日進市環境基本計画」を平成16年3月に策定しました。

この計画では、長期的な計画期間を20年間として長期目標を定め、社会経済情勢や環境問題の変化に応じて見直しを行うものとしました。短期的には5年間を計画期間として短期目標を定め、5年ごとに見直しを行うこととしています。

これまでに、平成20年度と平成25年度の二回の見直しを行い、地域別の取り組みや重点コンセプトを追加するなど計画の改訂を行いました。

＜重要コンセプト＞

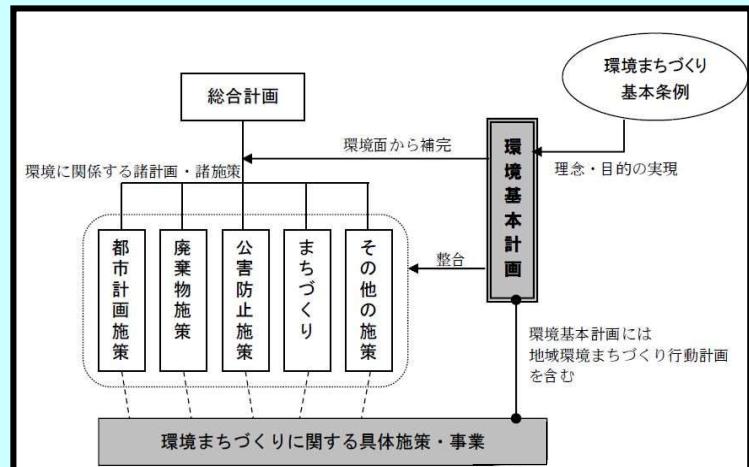
①環境分野における持続可能な開発のための教育（ESD）を進める

②環境まちづくりへの多様な組織の参加と連携の促進

2. 計画の位置づけ

『第5次日進市総合計画』における、将来都市像「いつまでも暮らしやすいみどりの住環境都市」に基づき、人と環境との適切な関わりを軸に、日進の将来像について、長期的、総合的な施策の指針を横断的にとらえ、環境面での総合計画として位置づけるものとします。

また、環境という切り口により、望ましい地域社会の構築をハード・ソフト・ハートのそれぞれの面から模索する「まちづくり」そのものである機能・役割を持つものとします。



（環境まちづくり評価委員会）

本委員会は、環境基本法第44条において定められている機関であり、環境基本計画等環境まちづくりに関する重要な事項の調査と審議を行うために設置され、環境まちづくりの推進に向けて取り組んでいます。

3. 計画期間

短期目標（5年）・・・・・平成26年度～平成30年度

*平成15年度の策定以降10年を経過した平成25年度に見直しを行い、新たな短期目標を定めました。

長期目標（10年）・・・・・平成26年度～令和5年度（平成35年度）

*長期目標については、社会経済情勢の変化に伴う環境問題の変化に応じて、計画の見直しを行います。

4. 対象とする環境まちづくりの範囲と計画概要

計画づくりの過程で出てきた多くの環境課題を整理し、対象とする環境まちづくりの範囲を設定し、「6つのテーマ」を設定しました。

水

緑

まち

ライフスタイル

コミュニティ

遊びと学び

計画の概要

1 分野別計画：上記 6 テーマを 12 分野で、現状と課題、環境まちづくりビジョン、環境指標と数値目標値、環境まちづくりプログラム（施策と具体的な取り組み）を計画しました。

2 重点プロジェクト：分野別計画の施策の中から重点的に推進すべき施策を、強力に推進するために共働で実施するもので、10 の重点プロジェクトを計画しました。本年次報告書では、分野別計画に沿って分析を行っています。

（重点プロジェクト）

- [1]源流域元気プロジェクト [2]親水プロジェクト
- [3]東部丘陵自然公園プロジェクト [4]みどりいっぱいプロジェクト
- [5]おもむきあるまちなみプロジェクト
- [6]みんなにやさしい交通プロジェクト
- [7]エコ生活プロジェクト [8]ごみのないまちプロジェクト
- [9]コミュニティプロジェクト [10]おまかせ！エコ共育プロジェクト

5. 分野別計画

分野別計画は、12 分野の環境まちづくりビジョンを実現するための施策と施策達成後の環境指標と数値目標を設定しました。

環境まちづくりビジョン

施策

【環境指標と数値目標】

第2部

計画(分野別計画)の実施状況

1 令和元年度の実施状況

(1) 全体の実施状況

<成果指標・進行管理指標の達成状況>

分野	分野別計画	成果指標			進行管理指標		
		指標数	長期目標達成数		指標数	長期目標達成数	
			H28	H30		H30	R1
水	A 川や池の水と水辺	1	0	0	5	1	1
	B 水の風景・水資源	1	0	0	3	0	0
緑	C 里山と息づく動植物	1	0	0	4	1	1
	D 農のある暮らし	1	0	0	4	1	1
	E 緑のネットワーク	1	0	0	3	1	0
まち	F 生活環境	1	0	0	6	3	3
	G まちなみ・まちかど	1	0	0	3	0	0
	H みちと足	1	0	0	3	1	1
ライフスタイル	I むらし全般・エネルギー	1	0	0	5	0	0
	J 生活と廃棄物	1	0	0	5	1	2
コミュニティ	K コミュニティ	1	0	0	4	3	2
遊びと学び	L 遊びと学び	1	0	0	4	3	3
		12	0	0	49	15	14
		達成率	0%	0%	達成率	31%	29%

- ・進行管理指標の目標達成率は、平成 30 年度と比較して若干の増減はありますが、ほぼ横ばいとなりました。
- ・今回の結果は、平成 30 年度で短期目標の設定年度が終了したため、長期目標の設定年度で達成数を算出しています。
- ・長期目標を達成した指標は、成果指標で 0%、進行管理指標で 29% となりました。進行管理指標の目標達成数はここ数年目立った増加がみられないこともあり、より積極的な推進が求められます。
- ・今後も本市の持続的な発展を目指す中で、各指標についてより効率的に目標達成を目指すため、本市の最上位計画である総合計画や、環境基本計画を始めとした諸計画について、具体的取り組み等を位置付けるよう検討していく必要があります。

(2) 指標について<成果指標と進行管理指標>

- ・これらの指標はビジョンの達成度を推し量り、状況を具体的に把握するためのツールです。
- ・指標名、基準値、直近の現状値と長期目標値（令和 5 年度まで）を表しています。
- ・成果指標は、2 年ごとに行われる市民意識調査の結果を指標としています。（平成 26 年度までは 3 年ごとに実施しており、最新の調査は平成 30 年度に実施しています。）
- ・進行管理指標は、その年の値を記載しています。
- ・平成 25 年度の見直しにより、基準値については、成果指標は平成 23 年度、進行管理指標は平成 24 年度の値を記載しています。

(3) 成果指標の進捗状況の評価について

平成 23 年度の市民意識調査の結果を基準値としています。基準値に対しての現状値を下記のマークで示しています。

	基準値が短期目標値、長期目標値を達成している。もしくは、長期目標値へ近づいている。
	基準値から変化なし。
	基準値より数値等が悪くなっている。

(4) 施策と関係課

- ・「環境まちづくりビジョン」を実現するために、こうしていこう！という施策を表しています。
- ・環境まちづくりプログラムの 12 分野における施策の方向性を掲げ、それを展開するための施策・具体的な取組・所管課を表記しています。
- ・なお、所管課は令和 2 年度の機構図に基づくものです。

(5) 環境まちづくりへの多様な組織の参加と連携の促進における取組状況

本市は、S D G s（持続可能な開発目標）（※（6）参照）達成に貢献できる担い手づくりのため、E S D（持続可能な開発のための教育）の考え方を取り入れた人づくりを行い、全ての市民が持続可能な社会の実現に向けて自発的に行動できるよう環境意識を高めていく取組を推進しています。

E S D 普及啓発事業の中において、環境基本計画の分野別計画「L. 遊びと学び」の環境まちづくりプログラム「L-1 環境共育（E S D）の推進」に該当する事業について、市民団体からの提案を受けた事業や民間事業者との連携を図った事業を実施しています。

また、「環境まちづくりサポートーズ制度」においても、環境まちづくりのために様々な取組を行う市民、市民団体、企業等の連携を支援する事業として推進しています。

(6) S D G s (持続可能な開発目標)

S D G s は、発展途上国のみならず先進国を含む国際社会全体の開発目標として、持続可能な世界を実現するための包括的な 17 の目標及び細分化された 169 のターゲットから構成され、地球上の「誰ひとり取り残さない」社会の実現をめざし、環境・経済・社会の諸課題を包括的に扱い、広範囲な課題に対する統合的な取組が示されています。発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むべき課題であること、また、自治体を含めたさまざまな立場の人が取り組むべき目標とされています。

本市においても、持続可能な社会を実現するため、S D G s を達成するための取組を積極的に推進していきます。

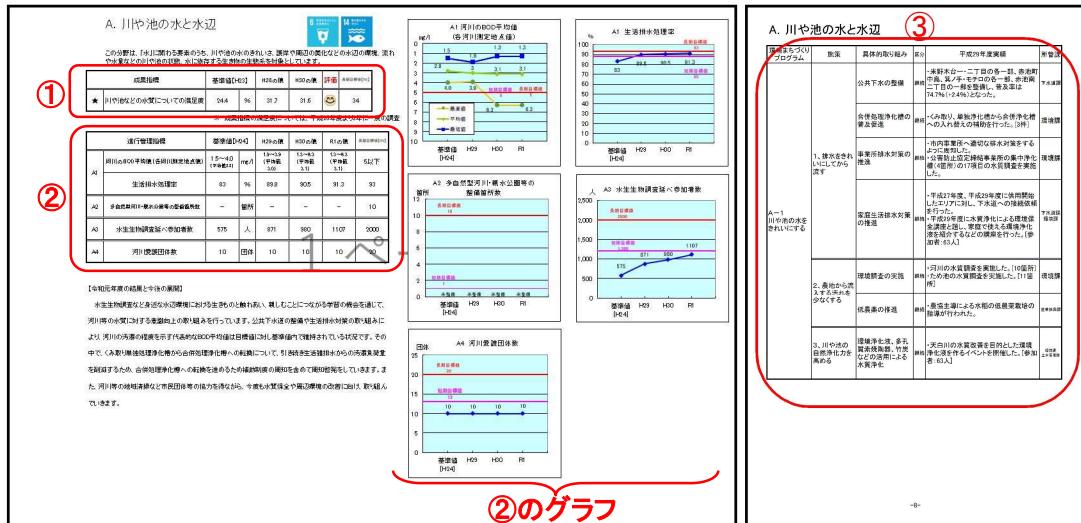
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2 分野別計画 A~Lの実施状況

<実施状況のまとめ方>

項目	①成果指標	②進行管理指標	③具体的取り組み
手法	定量的評価		定性的評価
根拠	市民意識調査 数値	所管課等の把握するデータ	各課の事業 所管課の年度実績



- ・分野別計画は、①～③の3項目で進行管理をしています。
- ・各分野の実施状況を、まず①②をまとめて掲載しています。
- ・その次に、③について施策ごとにまとめて掲載しています。

A. 川や池の水と水辺



この分野は、「水」に関わる要素のうち、川や池の水のきれいさ、護岸や周辺の美化などの水辺の環境、流れや水量などの川や池の状態、水に依存する生き物の生態系を対象としています。

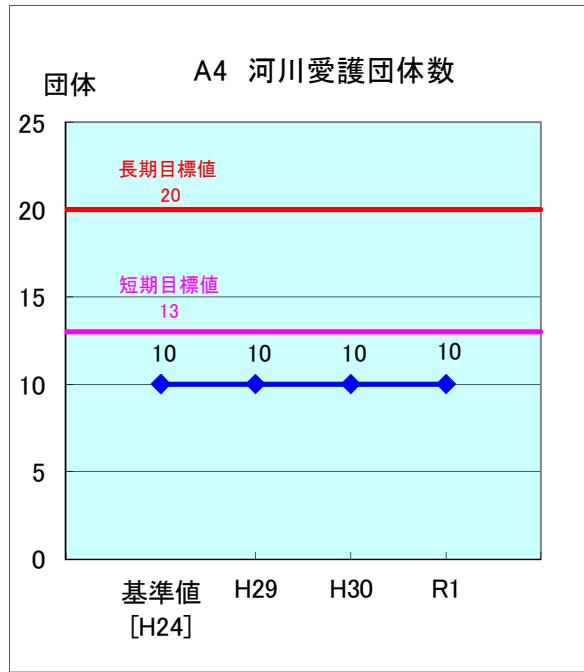
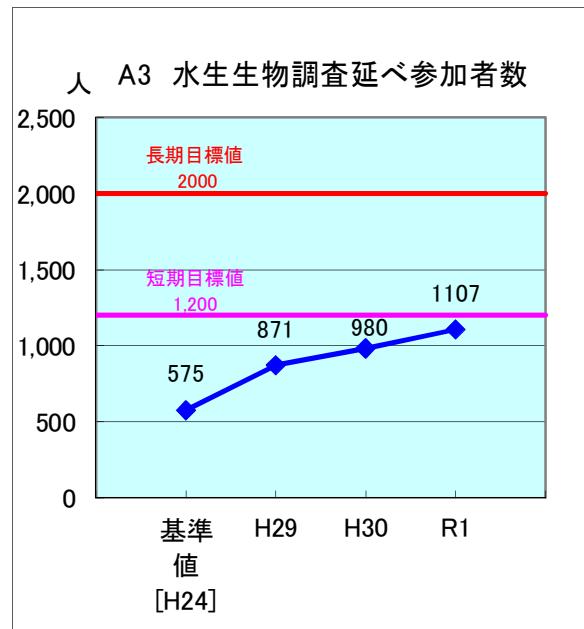
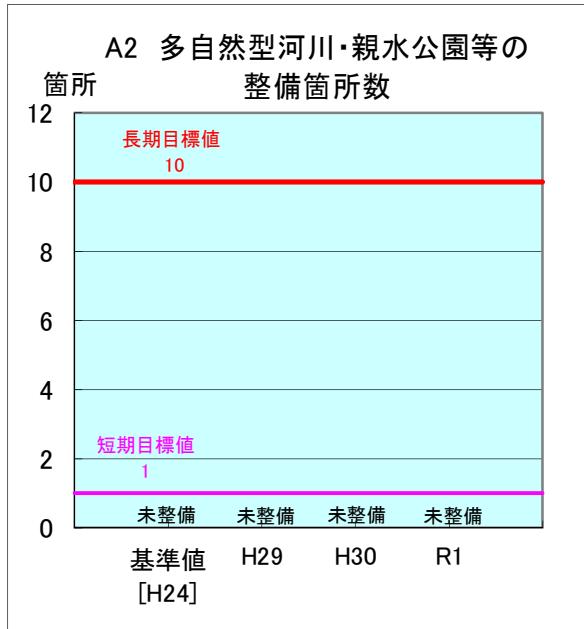
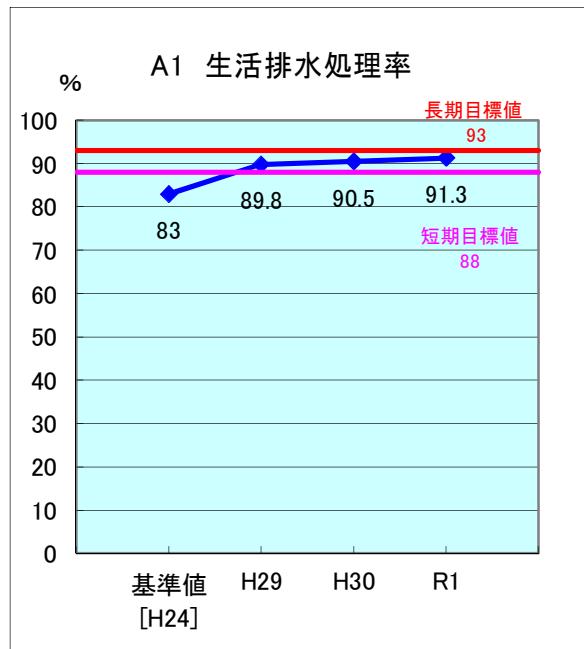
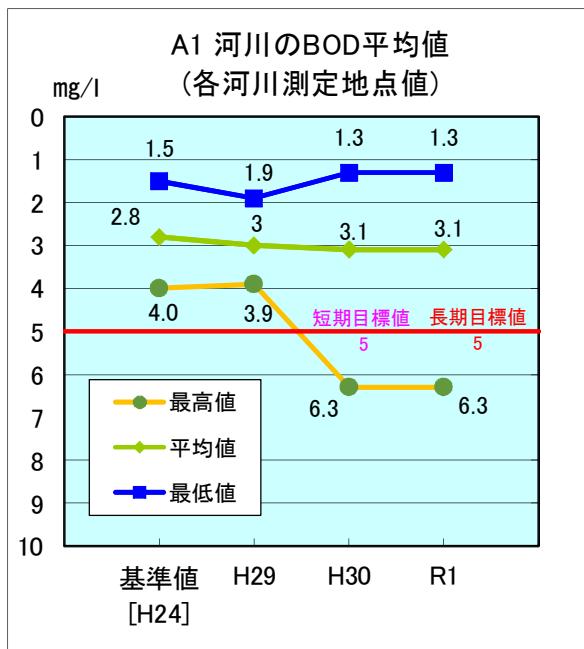
成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	川や池などの水質についての満足度	24.4	%	31.7	31.6		34

※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
A1	河川のBOD平均値(各河川測定地点値)	1.5～4.0 (平均値2.8)	mg/l	1.9～3.9 (平均値3.0)	1.3～6.3 (平均値3.1)	1.3～6.3 (平均値3.1)	5以下
	生活排水処理率	83	%	89.8	90.5	91.3	93
A2	多自然型河川・親水公園等の整備箇所数	—	箇所	—	—	—	10
A3	水生生物調査延べ参加者数	575	人	871	980	1107	2000
A4	河川愛護団体数	10	団体	10	10	10	20

【令和元年度の結果と今後の展開】

水生生物調査など身近な水辺環境における生きものと触れ合い、親しむことにつながる学習の機会を通じて、河川等の水質に対する意識向上の取り組みを行っています。公共下水道の整備や生活排水対策の取り組みにより、河川の汚濁の程度を示す代表的なBOD平均値は目標値に対し基準値内で維持されている状況です。その中で、くみ取り単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換について、引き続き生活雑排水からの汚濁負荷量を削減するため、合併処理浄化槽への転換を進めるため補助制度の周知を含めて周知啓発をしていきます。また、河川等の地域清掃など市民団体等の協力を得ながら、今度も水質保全や周辺環境の改善に向け、取り組んでいきます。



A. 川や池の水と水辺

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
A-1 川や池の水を きれいにする	1、排水をきれ いにしてから 流す	公共下水の整備	継続	岩崎町北高上、南高上、畔道、大廻間の各一部、梅森町上松の一部、赤池町箕ノ手の一部、浅田町美濃輪の一部、東山一・二・三・四・七丁目の各一部、藤枝町奥廻間の一部、米野木町土岡の一部を整備し、普及率は77.3% (+1.1%) となった。	下水道課
		合併処理浄化槽の 普及促進	継続	・くみ取り、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換の際、補助金を交付した。[4件]	環境課
		事業所排水対策の 推進	継続	・市内事業所へ適切な排水対策をするように周知した。 ・公害防止協定締結事業所の集中浄化槽(4箇所)の17項目の水質調査を実施した。	環境課
		家庭生活排水対策 の推進	継続	・令和元年度に水質浄化による環境保全講座と題し、家庭で使える環境浄化液を紹介するなどの講座を行った。[参加者: 44名]	環境課 下水道課
			完了	・平成29年度に供用開始したエリアに対し、下水道への接続依頼を行った。	
	2、農地から流 入する汚れを 少なくする	環境調査の実施	継続	・河川の水質調査を実施した。[10地点、2ヶ月に1回] ・ため池の水質調査を実施した。[11地点]	環境課
		低農薬の推進	継続	農協による水稻栽培指導の中で、農薬について指導した。	農政課
	3、川や池の 自然浄化力を 高める	環境浄化液、多孔 質素焼陶器、竹炭 などの活用による 水質浄化	継続	・天白川の水質改善を目的とした環境浄化液を作るイベントを開催した。[参加者: 44名]	環境課 土木管理課
A-2 川や池の水 量・流れ・生き 物を豊かにす る	4、水源域の 保水力を高 め、地下水を 保全する。	保水性の高い農 地・山林等水源域 の保全	継続	日進市開発等事業に関する手続条例により保全している。	農政課 都市計画課
		透水性舗装の推進 (重複記載F-2施 策3)	継続	・歩道整備において、透水性舗装を使用した。[竹の山68号線292m ²]	道路建設課
	5、淵と瀬、流 路など豊かな 流れを創出し、 生き物が棲み やすい生息環 境にする	多自然型河川整 備、川の豊かさの 基準づくり	継続	河川の草刈を行い、生き物が棲みやすい、良好な自然環境を維持している。	土木管理課

A. 川や池の水と水辺

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
A-3 川や池を楽し み守る場と意 識を育む	6、楽しく魅力 的な場所をつ くる	親水公園など自然 や水辺とふれあう ことのできる環境 整備	継続 完了	<ul style="list-style-type: none"> ・岩崎川堤防道路基本計画(平成26年 度)を策定し、水と緑の軸を創り出すこ とを目指している。 ・平成18年度～平成25年度に愛知県、 市、地域(岩藤区、北新区)と協働して、 岩崎川上流約1kmにおける植樹、育樹 を行った。 	企画政策課 環境課 都市計画課 道路建設課
		自然環境に配慮し た散策路の整備	完了	天白川堤防道路「ニッキーそよ風ロ一 ド」をカラー舗装にした。(平成25年度完 了)	道路建設課
	7、楽しみ守る 人の輪を広げ る	分野別計画「L. 遊 びと学び 1、水に 関する環境共育の 推進」に記載	継続		
A-4 川や池にごみ がないように する	8、ごみを捨て させないように する	不法投棄を防止す る対策の推進(重 複記載 J-4施策 8)	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄の啓発看板を配布した。[配 布数:36枚] ・多発エリアには監視カメラを設置し た。[新規:2箇所(延べ16箇所)] 	環境課
	9、捨てられた ごみを拾う	ごみゼロ運動等ご み拾い活動の定期 的な実施	継続	・ごみゼロ運動を実施した。[参加者: 876人、参加団体:26団体、実施日:5月 26日]	環境課
		日進市公共施設ア ダプトプログラム (里親制度)の推進 (重複記載 E-1施 策1)	継続	・登録団体が河川、道路などで草刈り や植栽等の活動を行った。[新規:4団 体、継続:24団体]	環境課
		地域清掃の推進	継続	・地域で清掃活動団体等に地域清掃袋 を配布した。[可燃袋:18,828枚、不燃 袋:2,404枚]	環境課

B. 水の風景・水資源



この分野は、「水」に関わる要素のうち、水に関する風景、すなわち川、池、水田などの保全および水の資源としての湧水、雨水などを対象としています。

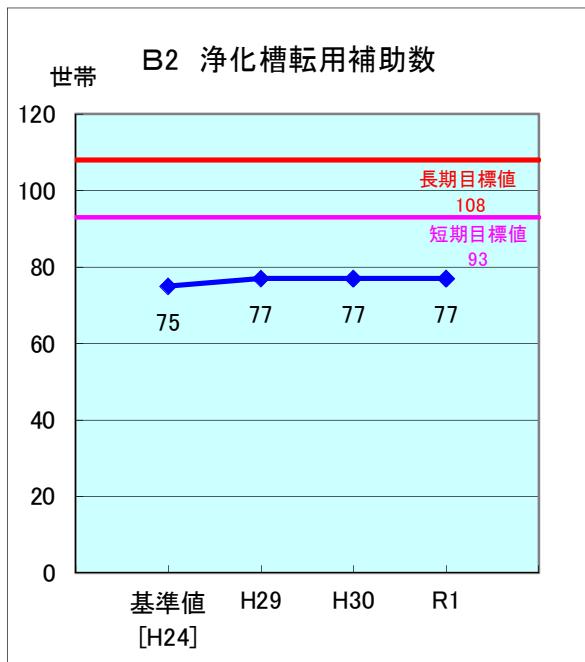
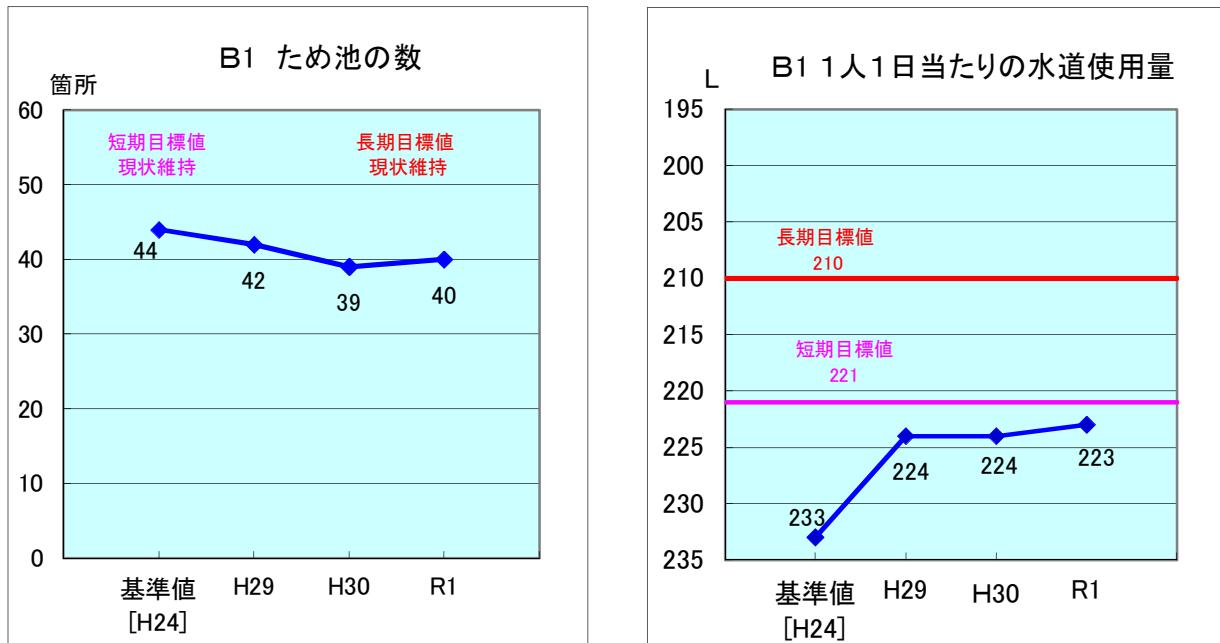
成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	身近で水に親しめる場所があると思う市民の割合	34.5	%	32.9	36.0		42

※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
B1	ため池の数	44	箇所	42	39	40	現状維持
	1人1日当たりの水道使用量	233	L	224	224	223	210(10%減)
B2	浄化槽転用補助数	75	世帯	77	77	77	108

【令和元年度の結果と今後の展開】

貴重な水資源を保全していくため、水環境配慮行動である節水や防災対策・洪水の防止対策などに有効な雨水の積極的な利用を呼び掛けています。その中で、浄化槽雨水貯留施設転用補助件数が伸びるよう今後も広報等や市のホームページを通じて周知を行います。転用にかかる費用負担が多いことから伸び悩んでいますが、引き続き水資源の有効利用に関する啓発活動を行っていきます。



B. 水の風景・水資源

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
B-1 身近な水風景 を守り育む	1、水風景の 資源となっ ている川・池・水 田を保全する	ため池保全計画の 策定	継続	未実施 [地域と連携する等、必要に応じて除 草・修繕等を行っている。]	農政課
		ため池の公園化の 推進	継続	・機織池の緑地にて「機織池周辺の森 愛護会」が公園等愛護会として活動し ている。	農政課 都市計画課
	2、より豊かな 水風景を守り 育む人の輪を 広める	分野別計画「L. 遊 びと学び 2、緑に 関する環境共育の 推進」に記載	継続		
		災害時の水道施設 復旧状況等の周知	完了	・愛知中部水道企業団が実施する配水 池補給水設備による給水車補給訓練 に参加した。 ・市のHPに愛知中部水道企業団のHP をリンクさせ、節水への呼びかけを行つ た。	下水道課
	3、安定的な水 供給の支援を 図る	節水意識の普及啓 発	継続	・環境まちづくりサポートーズ会員に向 け、メール配信の中で、家庭の省エネ・ 節水行動の普及啓発を行った。 ・ESD事業として、様々な環境イベント を実施し、その中で天白川の水質や環 境実態を学ぶことで水質保全や節水意 識の普及啓発を行った。	環境課

B. 水の風景・水資源

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
B-2 貴重な水資源 を大切にする	4、雨水の有 効利用を進め る	浄化槽雨水貯留施 設転用補助	継続	<ul style="list-style-type: none"> 下水道事業説明会や広報でPRした。 浄化槽雨水貯留施設転用補助金のH Pで雨水利用のメリットを紹介した。 	下水道課
		雨水利用の促進	継続	<ul style="list-style-type: none"> 下水道事業説明会や広報でPRした。 浄化槽雨水貯留施設転用補助金のH Pで雨水利用のメリットを紹介した。 	下水道課 環境課
	5、災害時にも 役立つ湧き 水・井戸を保 全する	湧き水・井戸水マッ プを作成し、災害 時利活用する	継続	<ul style="list-style-type: none"> 今のところ、マップの作成には至って いないが、取水する水源については、 最寄りの非被災水道事業者と協議を確 保し、これによることが不可能な場合は 比較的汚染の少ない井戸水、河川等を ろ水機によりろ過したのち、塩素剤によ り滅菌して給水する計画はある。 	防災交通課 環境課

C. 里山と息づく動植物



この分野は、「緑」に関わる要素のうち、里山とそこに息づく動植物を対象としています。里山とは、様々な人間の働きかけを通じて形成された樹林地を指し、多様な環境保全機能を有しています。

成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	身近で緑にふれあえる場所があると思う市民の割合	75.8	%	75.9	78.4		82

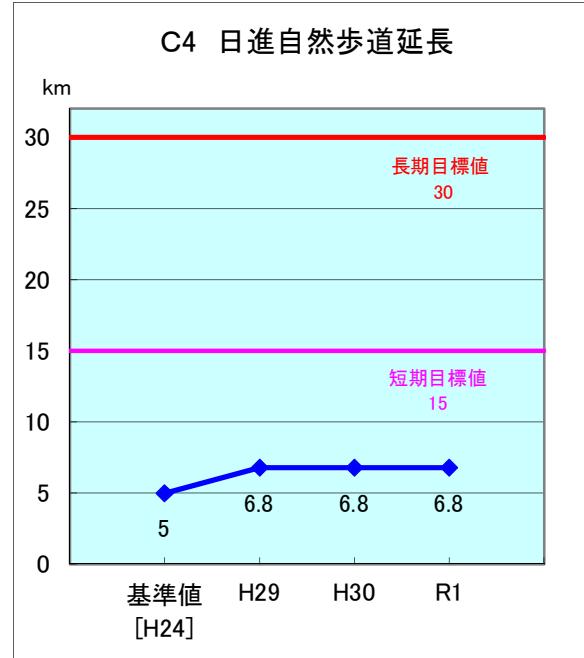
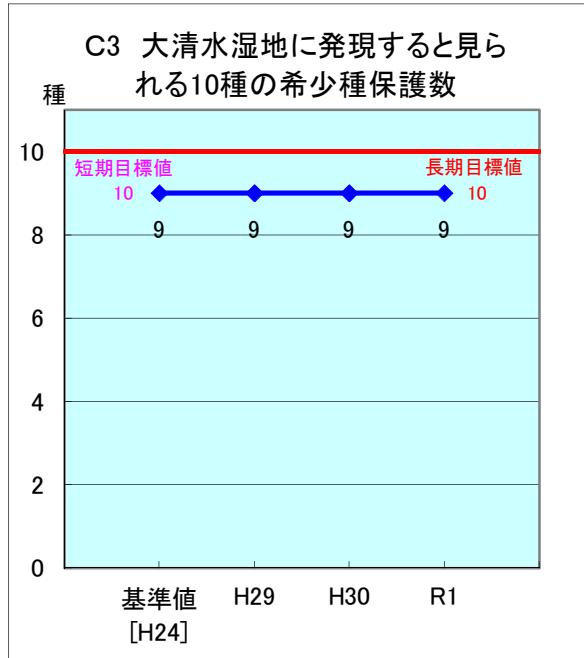
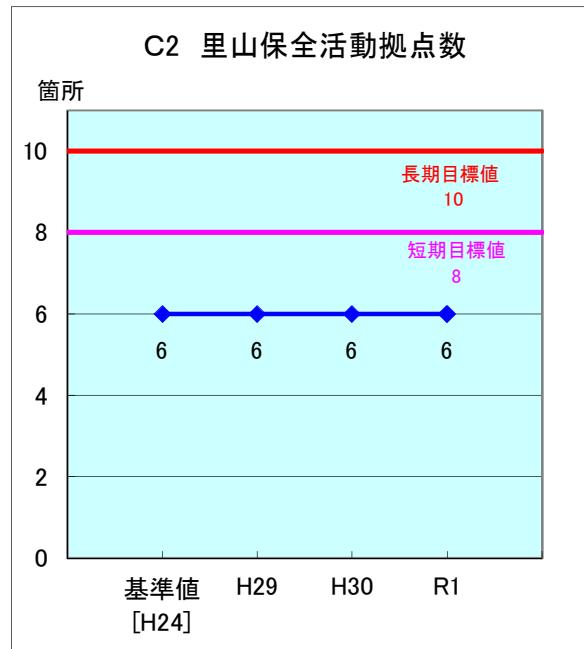
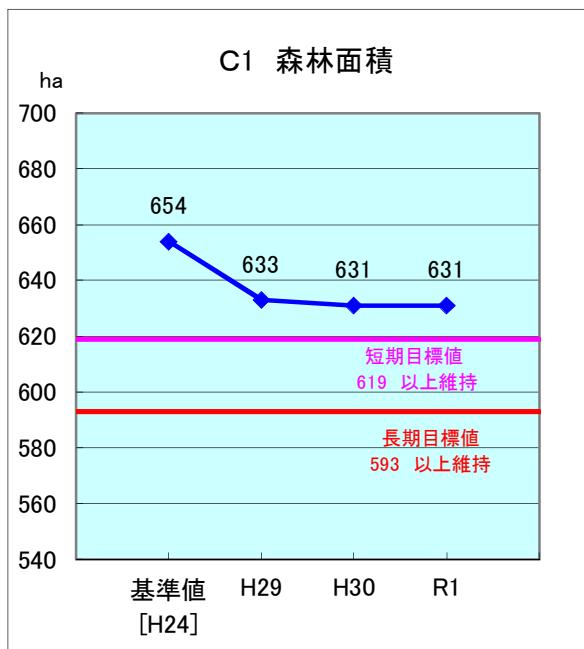
※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
C1	森林面積	654	ha	633	631	631	593 以上維持
C2	里山保全活動拠点数	6	箇所	6	6	6	10
C3	大清水湿地に発現すると見られる10種の希少種保護数	9	種	9	9	9	10
C4	日進自然歩道延長	5	km	6.8	6.8	6.8	30

【令和元年度の結果と今後の展開】

良好な自然環境の保全を行うため、市民団体の協力も得ながら緑地や里山の適正な維持管理を行っています。自然歩道については、遊歩道化には工事費が伴うことからも整備が進まない状況です。

そのような中でも、外来生物の駆除による生態系の保全の取り組みや自然環境に触れあう機会の創出を目的に、希少な動植物の保護や里山保全の重要性を学ぶ講座等を開催し、里山保全につながる取り組みを行っていきます。



C. 里山と息づく動植物

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
C-1 天白川源流の 地「東部丘陵」 を守り育てる	1、公立の自 然公園の実現 をめざす	自然環境を守るた めの仕組みづくり	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・大清水湿地の公開を行い、自然環境に触れ合う機会を創出した。[公開日:4月7日、来場者:128名] ・につしんESD事業として、様々な環境イベントを実施し、その中で東部丘陵の重要性について説明した。[参加者:43名] 	環境課 都市計画課
		東部丘陵の環境保 全型自然公園整備	継続 完了	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は新規整備に係る進捗な し。 ・平成27年度に県事業により、池の南 東部分に管理用通路の整備を行い、岩 藤新池1期地区工事としては完了。 	都市計画課
	2、東部丘陵 の自然を活か す利活用を進 め良さを広め る	東部保全基金の募 金活動及び有効な 利活用	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所総合窓口に募金箱を設置し、 支援を呼びかけた。 	都市計画課
		市民による環境保 全監視パトロール と環境基金制度の 実施	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民(岩藤区)が監視員となり、 定期的な巡視を行った。 ・地域住民や市民団体と協力して、不 法投棄の監視等を行った。 	環境課 都市計画課
C-2 里山を自然豊 かな場としてで きる限り残す	3、開発と保全 に関する規制・ 話し合いの機 会をつくる	里山保全条例づく り検討	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・未実施 [市が管理する北高上緑地を市民団体 に運営・管理を委託し、適切な里山保 全の方法を研究した。] 	都市計画課
	4、手入れする など里山として の価値を高 め、地権者や 市民が里山を 残したくなるよ うにする	地域学習林の整 備・利活用	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で授業の一環として活用した り、PTA、家推のイベントや「森の会」で 活用した。 	学校教育課
		里山保全のための 仕組みづくり	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・タケノコ掘り、竹炭作り等の北高上緑 地里山体験イベントを開催し、里山に 触れ合う機会を創出した。 [年間7回開催。年間延べ164人] 	都市計画課

C. 里山と息づく動植物

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
C-3 大切にしたい 動植物を守り 育む	5、希少な動植 物とその生息・ 生育環境を守 る	絶滅危惧種、希少 種、天然記念物の 保護対策	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・大清水湿地にて、市民団体の協力の下、湿地植物の保護に努めた。 ・総合運動公園内において、絶滅危惧種であるマメナシを保護するため、除草・剪定・施肥等、適切な維持管理を行った。 ・保護の一環として希少種や里山保全の重要性を学ぶ講座を開催した。[参加者:127名] 	環境課 都市計画課 生涯学習課
		特定外来種駆除の 推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・猟友会と連携する等農作物等の被害にあった場所に箱わなを設置し、狩猟免許取得に対する補助を行った。 ・アライグマ、ハクビシンの駆除を行った。 ・市HPで、オオキンケイギク等特定外来生物の情報を掲載し、周知した。 ・5~6月を期間とした、オオキンケイギク防除キャンペーンを実施した。 	環境課 農政課
		外来生物等防除と 鳥獣害対策	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物等防除と鳥獣害対策として、捕獲し駆除を行った。[イノシシ11頭、アライグマ9頭、ハクビシン12頭、スズメ355羽] ・狩猟免許取得に対する補助を行った。 	環境課 農政課
	6、土地利用 や開発行為に おいて生態系 へ配慮する	生物多様性地域戦 略の検討	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体と希少生物など生物多様性の情報交換等をした。 	環境課
		生物多様性の保全 に向けた仕組みづ くり	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・につしんESD事業として、様々な環境イベントを実施し、その中で生物多様性の保全が重要なことを説明した。 	環境課
C-4 里山や動植物 を楽しみ守る 場と意識を育 む	7、楽しく遊び 学べる機会を つくり、守る人 の輪をつくる	分野別計画「L. 遊 びと学び 2、緑に 関する環境共育の 推進」に記載	継続		

D. 農のある暮らし



この分野は、「緑」に関わる要素のうち、緑地としての農地、それを支える農業、市民のそれらに関するあらゆる農のある暮らしに関するものを対象としています。

成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	市内で農業体験をしたことのある世帯の割合	19.2	%	20.7	21.0		32

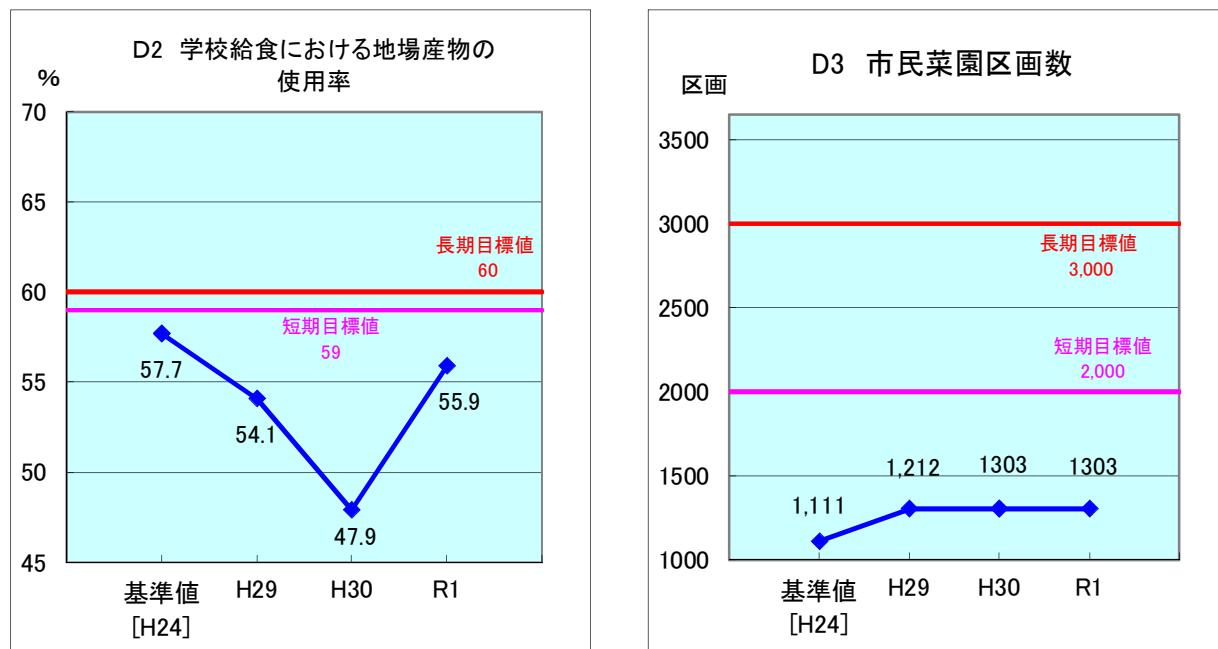
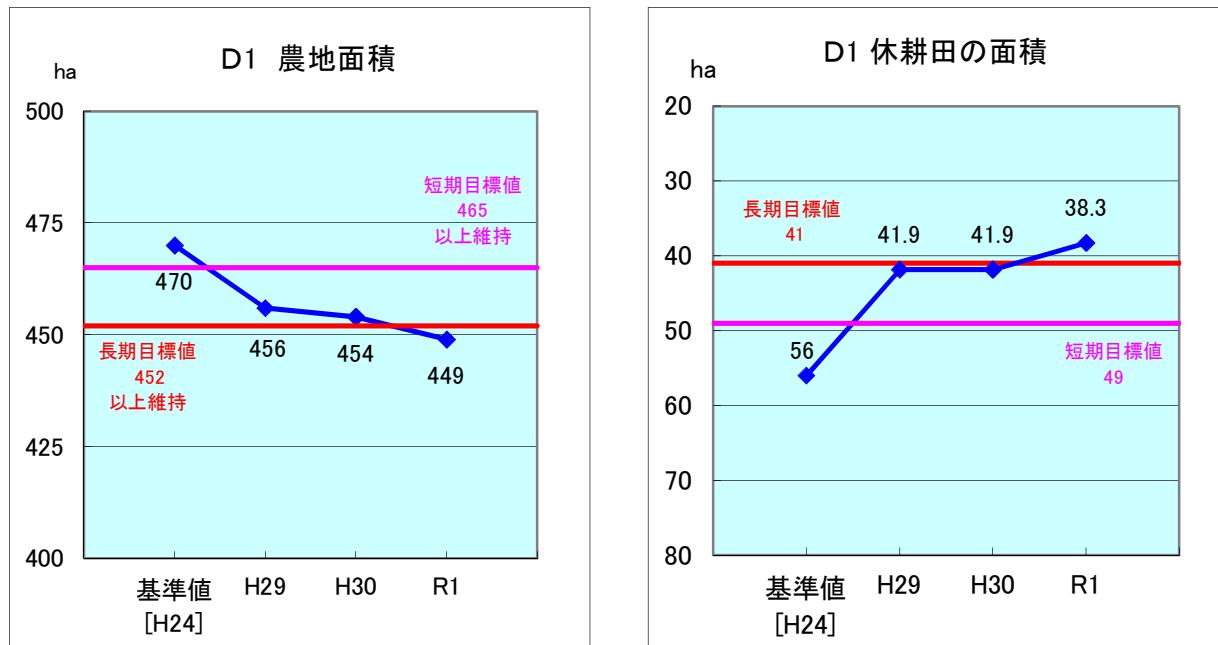
※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
D1	農地面積	470	ha	456	454	449	452 以上維持
	休耕田の面積	56	ha	41.9	41.9	38.3	41
D2	学校給食における地場産物の使用率	57.7	%	54.1	47.9	55.9	60
D3	市民菜園区画数	1,111	区画	1,303	1,303	1,303	3,000

【令和元年度の結果と今後の展開】

農地の有する多面的な機能を考慮し、多様な生物の生息場所としての農地保全、「食」の安全・安心からの地産地消の推進等が求められています。

本市は今も人口増加と発展を続ける自治体ですが、一方で農業の全国的な課題である農業従事者の高齢化や後継者不足等は、本市も例外ではありません。そのため、今後も農用地の利用促進や耕作放棄地の減少に向け、担い手による農地の集積・集約化や地域と連携し新しい担い手の育成の支援等を図るなど営農活動を推進していきます。また、市民の農の関心を高めるために、市民農園の利用率向上や、民間市民農園の開設も推進していきます。



D. 農のある暮らし

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
D-1 農地・農業を守り育てる	1、開発と保全に関する規制・話し合いの機会をつくる	都市計画法・農地振興法でのゾーニングの整理	継続	・都市マスタープランの改定に向けて、小学校区別のアンケート及びワークショップを行い、改定素案の検討を行った。[アンケート回答数:283名、ワークショップ参加者:延べ151名]	都市計画課 農政課
		農業後継者や新たな担い手の発掘・育成	継続	・専業農家を目指す青年新規就農者の就農支援、営農組合・集落営農組織等の支援及び立上げ支援を行った。日進アグリスクールで新たな担い手を育成した。	農政課
		農地バンク制度等の推進	継続	・広報・HP等で、また、日進アグリスクール修了生に対して、制度を周知し、新規の利用権設定をした。[新規登録:3件]	農政課
		六次産業化の推進	継続	・市民まつりで6次産業PRブースを設置し、日進市6次産業化推進戦略のPRと、本市の6次産業商品(どぶろく・ブドウの加工品等)のPRを行った。また農業者等と新たな6次産業商品の検討を行った。	農政課
		転作の促進	継続	・県からの需給調整に基づき、適正な水稻作付を行った。また、転作を行った農家に補助金を支給した。[268戸]	農政課
		農作業の集積・機械化による効率化の支援	継続	・営農の中心的役割を担う農協が地域農業の効率化等のために導入した農業用機械に対し補助を行った。また、農協等による農地の集積について支援をした。	農政課
		特產品の開拓の推進	継続	・農業者と新しい特產品開発のために必要な農地の選定を行った。また、農業者・福祉団体・商業者等と得意分野を活かしたワンチームによる特產品の検討を行った。	農政課
	3、休耕田、耕作放棄地の利用を進める	田園フロンティアパークの整備	継続	・市民農園7園の管理運営を行った。 ・本郷農園排水路浚渫工事を行った。	農政課
		市、農協などの事業者、農家などが管理する市民農園の拡大	継続	・市及び民間による市民農園を整備した。 [新規:0区画、継続:1,303区画]	農政課
		景観形成作物栽培の支援	継続	・農振農用地の田で、景観形成作物(コスモス)を栽培した農家に補助金を支給した。[2戸]	農政課

D. 農のある暮らし

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
D-2 環境や食の安全に配慮した農業を進める	4、有機農業や地産地消を進める	販売店などへの地元産農産物を置く働きかけ	継続	・マックスバリュ米野木店、コープあいち日進店、イトーヨーカドー赤池店(プライムツリー赤池内)で日進産農産物の販売を行った。	農政課
		循環型農業の推進	継続	・有機農業に取組む農業者に補助金を支給した。[1件]	農政課
		地元産品の消費者へのPR	継続	・日進野菜研究会が毎週日曜日に行う朝市を支援した。 ・市民まつりで、市内農業者の農産物・加工品の販売ブースを設置しPRを行った。 ・ふるさと納税返礼品で多くの地元産品をPRした。	農政課
		食育の推進	継続	・第3次日進市食育推進計画に基づき、市担当部署、農協、大学、NPO等が連携し、情報共有を図り、事業の検討、精査をした。 ・大学と連携し若者に対する食育を啓発した。	農政課
		市内産のお米や野菜等を使った給食の実施	継続	・市内産の農産物として、米飯(週4回程度)は主に「あいちのかおり」を139回(91,195kg)、野菜は、大根、白菜、たまねぎ等 14種類(6,875kg)を使用した。	学校給食センター
D-3 市民の農のある暮らしとその魅力を広める	5、農のある暮らしを楽しめる農業公園をつくる	田園フロンティアパークの整備(農業レストラン、特産市、貸し農園等)	継続	・市民農園の管理運営を行った。主に親子を対象とした6次産業を体験する講座の開催を検討した。 ・日進アグリスクール野菜づくり中級コースを実施した。 ・NPOによる希少種のもち米の栽培を検討した。	農政課
	6、農のある暮らしを楽しみ守る人の輪を広める	分野別計画「L. 遊びと学び」に記載	継続		

E. 緑のネットワーク



この分野は、「緑」に関わる要素のうち、市街地の緑を創出し、それらの緑の点を里山の緑から線で結びネットワーク化するための取組に関するものを対象としています。

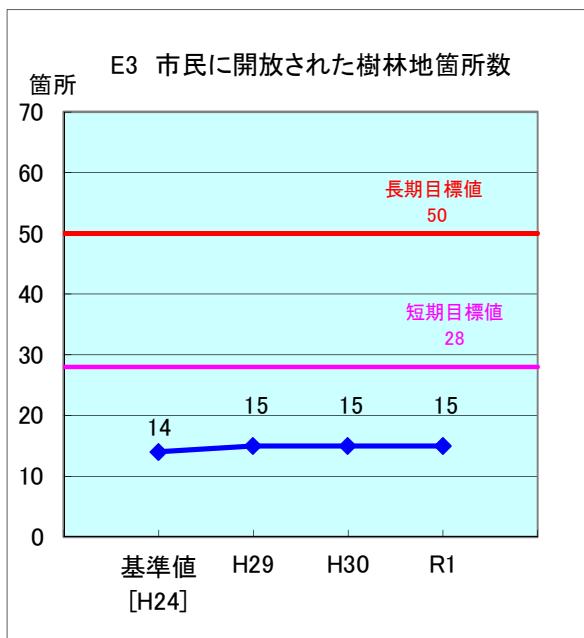
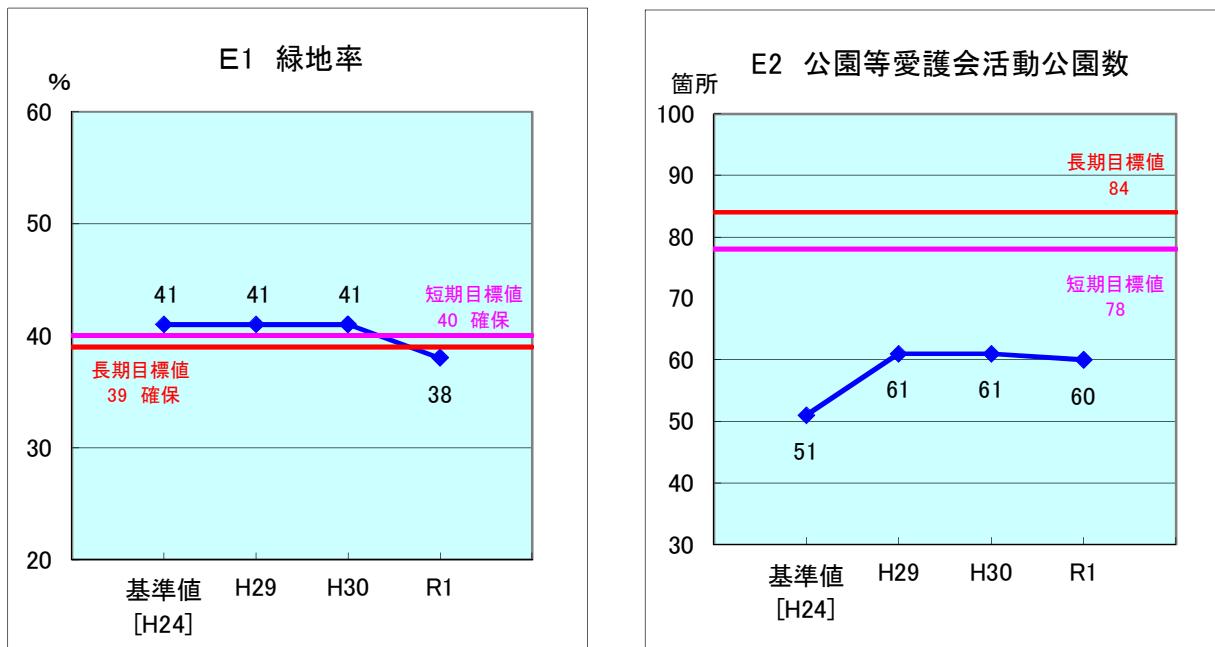
成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	緑化の推進に対する満足度	49.2	%	47.9	47.4		59

※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
E1	緑地率	41	%	41	41	38	39 確保
E2	公園等愛護会活動公園数	51	箇所	61	61	60	84
E3	市民に開放された樹林地箇所数	14	箇所	15	15	15	50

【令和元年度の結果と今後の展開】

市街地の緑を創出し、緑のネットワーク化による良好な住環境を維持・創出していくことが求められています。土地区画整理事業や民間開発等、今なお住宅開発が進む本市において、開発により緑地率が下がっていく傾向にありますが、それを補うため、公共用地の緑化に努めます。また、壁面緑化等民間の優良緑化事業に対し補助金を交付することで、身近な緑を保全するとともに緑の保全の意識向上を図っていきます。



E. 緑のネットワーク

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
E-1 「線」で結ぶ公共用地の緑化を進める	1、道沿いの緑化を進める	植栽可能路線の調査、実施検討	継続	枯れ木を撤去した植栽スペースや空きスペースに樹木の植樹を行った。	土木管理課
		日進市公共施設アダプトプログラム（里親制度）の推進（重複記載 A-4施策9）	継続		
	2、川沿いの緑化を進める	天白川・岩崎川沿いの散策コースとポケットパーク等の整備	完了	・天白川堤防道路「ニッシーそよ風ロード」をカラー舗装にした。（平成25年度完了） ・岩崎川堤防道路基本計画を策定した。（平成26年度）	道路建設課 環境課
		水辺の緑の回廊の推進	継続	・草刈等の維持管理工事を実施した。	
		水辺の緑の回廊の推進	完了	・平成18年度～平成25年度に愛知県、市、地域（岩藤区、北新区）と協働して、岩崎川上流約1kmにおける植樹、育樹を行った。	
E-2 家庭、事業所などの「点」の緑化を進める	3、家庭・地域・学校・事業所・公共施設における緑化を進める	オープンガーデンや花いっぱい運動等の推進	継続	・オープンガーデンを実施すると共に、広報にて協力者の募集を行った。[4月11日～6月30日（延べ開催日数22日、参加者：5名、来場者：298名）] ・花いっぱい運動を実施した。[地元区を含む8団体]	都市計画課
		市民や事業所による緑を守り育てる活動のリーダーの育成、活動支援	継続	・里山保全実践講座を3回実施した。[参加者：延べ13名]	都市計画課
		公園愛護会等、緑化推進団体の活動支援（重複記載 G-1施策2・K-1施策2）	継続	・花づくり講習会を2回開催した。[参加者：延べ164名]	都市計画課
		緑化木を配布する等、市民が地域の緑を増やす活動の推進	継続	・コバノミツバツツジまつりにてブルーベリーの苗を80本配布した。 ・家庭や事業所の緑化を推進するため、ゴーヤやアサガオ等の苗を緑のカーテン用資材として配布した。 ・日進アグリスクールにおいて農の担い手育成し、また、NPOと連携して農に親しむプログラムを実施した。	都市計画課 農政課 環境課
		事業所、公共施設等の建物緑化	継続	・本庁舎北側花壇及び北庁舎花壇の管理 ・公共施設において緑のカーテンを実施し、建物緑化に関するきっかけ作りを行った。[市役所北庁舎、各福祉会館(6)、小中学校(10)、保育園(10)、その他の公共施設(12)の合計39箇所]	財務政策課 環境課

E. 緑のネットワーク

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
E-3 緑あふれる暮らしこそその魅力を広める	4、緑化を楽しむための機会・人の輪をつくる	花作り講習会の開催	継続	・花づくり講習会を2回開催した。[参加者:延べ164名]	都市計画課
		花いっぱい運動の推進	継続	・花いっぱい運動を実施した。[地元区を含む8団体]	都市計画課
		分野別計画「L. 遊びと学び 2. 緑に関する環境教育の推進」に記載			
	5、総合的な緑化のための制度を充実させる	緑化条例等制度の検討	継続	・未実施 [現在、「緑の基本計画」に基づき緑化保全を推進している。]	都市計画課

F. 生活環境



この分野は、「まち」に関わる要素のうち、日々呼吸している空気の質、空気の流れである風、さらにはまちの上に広がる空の環境、自然の音環境など身近な生活環境を対象としています。

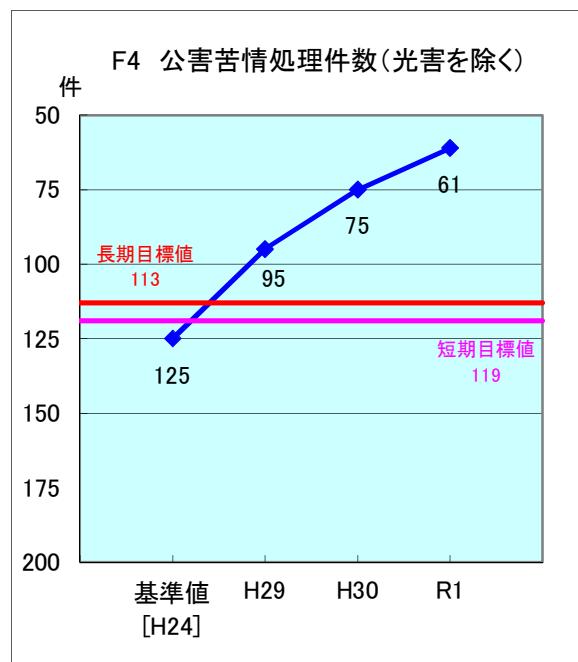
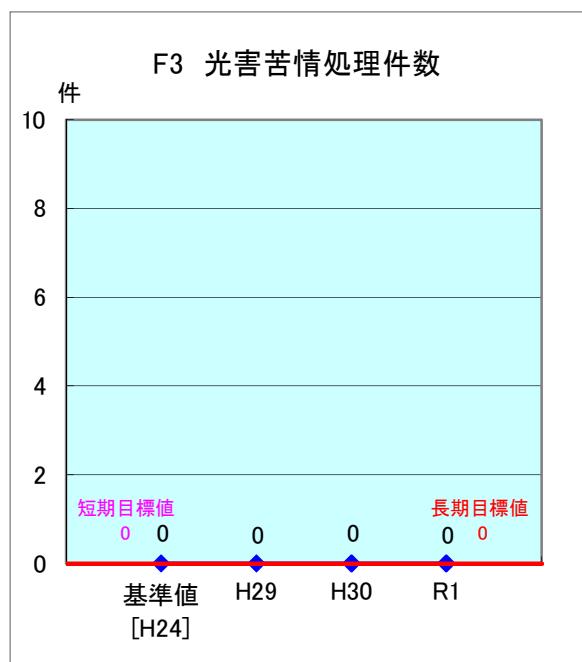
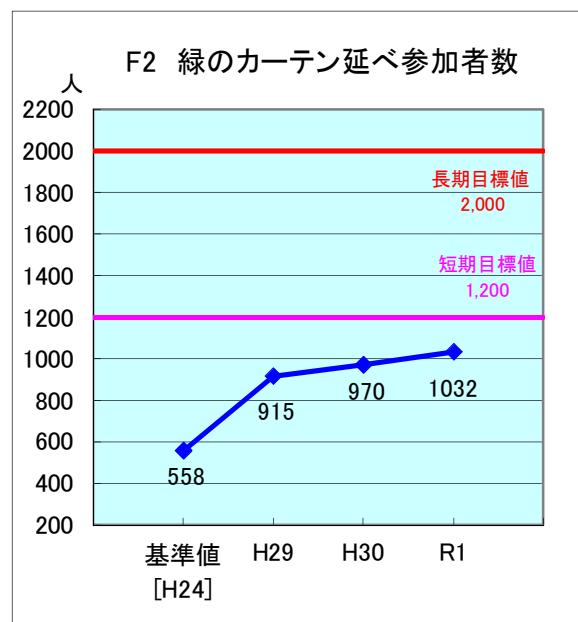
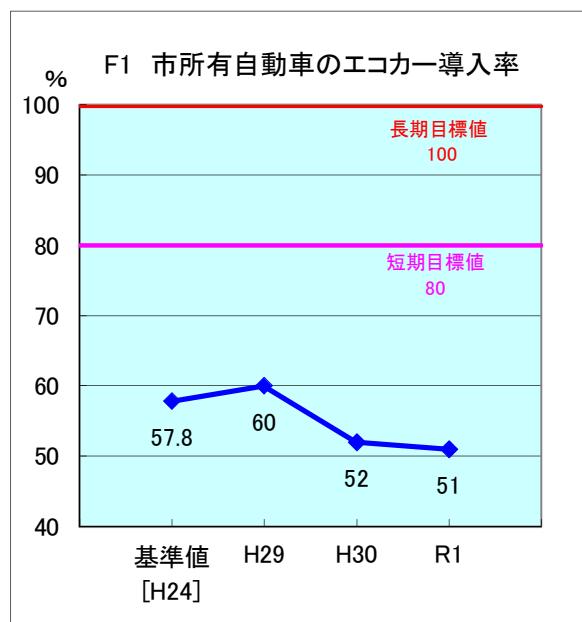
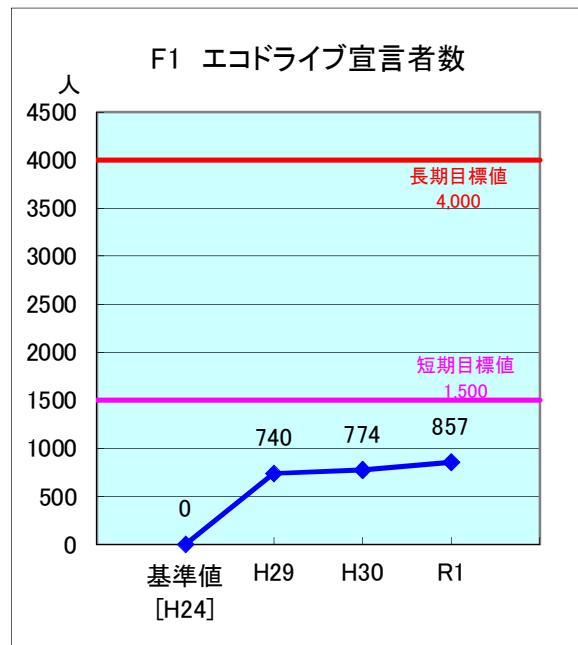
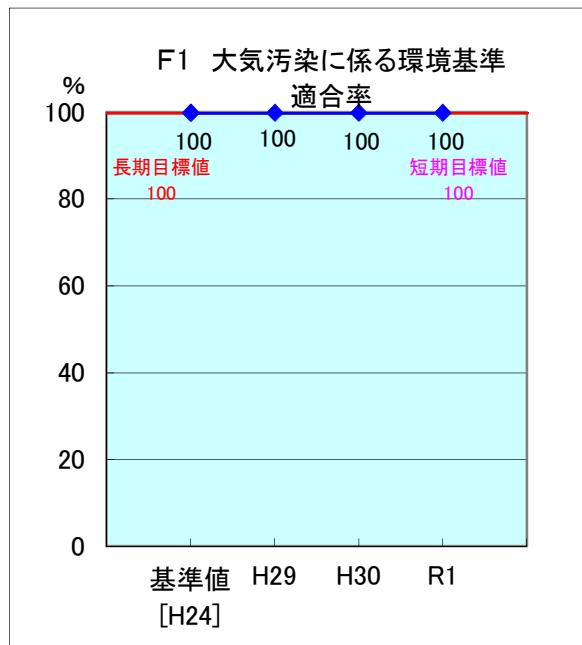
成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	公害対策に対する満足度	33.8	%	41.1	37.9		52

※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
F1	大気汚染に係る環境基準適合率	100	%	100	100	100	100
	エコドライブ宣言者数	-	人	740	774	857	4,000
	市所有自動車のエコカー導入率	57.8	%	60	52	51	100
F2	緑のカーテン延べ参加者数	558	人	915	970	1,032	2,000
F3	光害苦情処理件数	0	件	0	0	0	0
F4	公害苦情処理件数(光害を除く)	125	件	95	75	61	113

【令和元年度の結果と今後の展開】

身近な暮らしにおける快適な生活環境を確保するために、大気、騒音、振動、悪臭、環境美化(ポイ捨て、フン害、迷惑空き地、野焼き)などの公害対策が求められています。こうした対策は、行政・事業者・地域コミュニティが連携し対策を図るとともに、市民一人ひとりが、身近なことから取り組んでいくことも大切であるため、今後も生活環境の向上のために市民等への啓発・周知を進めていきます。また、大気をきれいにする取り組みとして、エコカーの普及・エコドライブなどを推進していきます。



F. 生活環境

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
F-1 空気をきれい にする	1、工場・焼却 場・野焼き等 の大気汚染防 止対策を進め る	光化学スモッグ・微 小粒子状物質 (PM2.5)に係る注 意喚起	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・県から予報等(光化学スモッグ)や注 意喚起情報(PM2.5)が発令された際 に、市内公共施設をはじめ、保育園、 幼稚園、小学校、中学校、高等学校に 連絡する体制を整えている。[令和元年 度連絡実績:0件] ・市役所においても看板を設置、来庁 者に注意喚起を行なった。 	環境課
		野焼き等に関する 指導、市民への周 知徹底	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・野焼きの苦情に対応し、必要に応じて 指導をした。[R1実績:20件] ・市HP、広報等での啓発・周知により、 年々市民の意識向上が進んでいいること から、苦情件数は前年度より減少して いる。 	環境課
	2、エコカーの 普及及びエコ ドライブの推進 を図る	エコカー導入促進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・あいち自動車環境戦略会議総合調整 会議に参加し、大規模開発予定地に電 気自動車充電設備を設置するよう に図った。 	環境課
		公用車のエコカー 転換	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・未実施 [日進市環境保全・創出のための行動 計画のグリーン購入推進の中で、公用 車の導入時や買替え時にはエコカーを 検討することとしている。] 	財務政策課
		エコドライブ・アイド リングストップ運動 の推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・環境まちづくりサポートーズ会員にな る際に、エコドライブについて賛同して いただいている。 ・県主催のエコモビ推進事業の広報活 動を実施した。 	防災交通課 環境課
F-2 気持ち良い風 を生み出す環 境を育む	3、まちの廃 熱・蓄熱を減ら し身近な緑・水 面を守り育む	ヒートアイランド対 策のPR	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・日進市地球温暖化対策地域協議会 の事業の中で、緑のカーテンコンテスト などの地球温暖化に対する事業を実施 した。 	環境課
		公共施設等の緑化 推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・管理する施設内の緑地について、適 切に維持管理を行った。 ・ふれあいの庭、屋上緑化設置による 省エネルギーの推進(図書館) ・公共施設において緑のカーテンを実 施し、建物緑化に関するきっかけ作りを 行った。[市役所北庁舎、各福祉会館 (6)、小中学校(10)、保育園(10)、その 他の公共施設(11)の合計38箇所] 	各施設担当課
	透水性舗装の推進 (重複記載A-2施 策4)		継続		

F. 生活環境

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
F-2 気持ち良い風を生み出す環境を育む	3、まちの廃熱・蓄熱を減らし身近な緑・水面を守り育む	緑のカーテンの推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> にっしん緑のカーテンコンテストを実施し26名の参加があった。にっしん市民まつり内で一般部門の最優秀賞1名、優秀賞3名の合計4名を表彰した。コンテスト参加者の増加方法が課題であり、手法の検討などを行っている。 公共施設において緑のカーテンを実施した。[市役所北庁舎、各福祉会館(6)、小中学校(10)、保育園(10)、その他の公共施設(11)の合計38箇所] 	環境課
F-3 照明による環境への影響(光害)を減らす	4、屋外照明のあり方を見直す	環境省が定める光害対策ガイドラインの推進	完了	<ul style="list-style-type: none"> 環境省が推進してきたライトダウンキャンペーンは、その目的である日常生活の中で地球温暖化対策を実践する契機とすることについては定着していることから平成30年度まで環境省の呼びかけは終了している。 販売店と協力したLED販売キャンペーンなどを実施し、省エネ性能の高いLED照明が投資回収可能なCO2削減対策であることなど情報発信した。 	環境課
F-4 身近な生活環境を守る対策と意識を育む	5、公害防止対策に努めます	騒音・振動・悪臭に係る規制地域及び規制基準の設定、指導 事業所との公害防止協定の推進	継続 継続	<ul style="list-style-type: none"> 騒音、振動、悪臭等に関する苦情に対し、法・県条例に基づき指導及び助言を行った。[2件] 法・県条例対象外の相談にも、必要に応じて対応した。[39件] <ul style="list-style-type: none"> 次年度に既に締結している事業者との協定内容の再整備、協定未締結の大規模事業者への呼びかけ等を検討している。 [公害防止協定(環境保全協定)継続:8件] 	環境課 環境課
	6、快適な住環境に努めます	マナー向上対策(ポイ捨て・フン害等) 迷惑空き地対策	継続 継続	<ul style="list-style-type: none"> 犬のフン害防止啓発看板を市民に配布した。[配布枚数47枚。内、公共用地に13枚設置] 猫侵入防止装置の貸出を行った。[34件] ポイ捨て・不法投棄防止啓発看板を市民に配布した。[配布枚数:36枚。内、公共用地6箇所設置] <ul style="list-style-type: none"> 日進市空き地雑草等の除去に関する条例に基づき、雑草の繁茂等、空地の不良状態の改善を指導した。[指導数:142件] 	環境課 環境課

G. まちなみ・まちかど



この分野は、「まち」に関わる要素のうち、人々が住む市街地における建物や空間などを一体として考える「まちなみ」や、ちょっとした小空間、個別の建物の状況を意味する「まちかど」を対象としています。

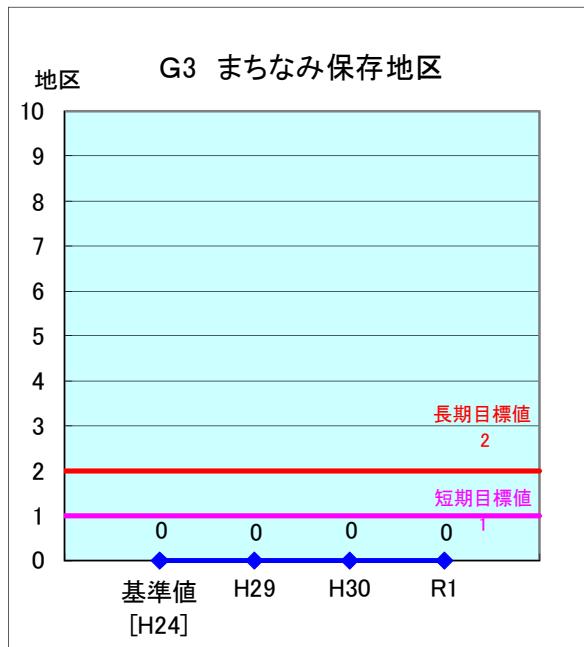
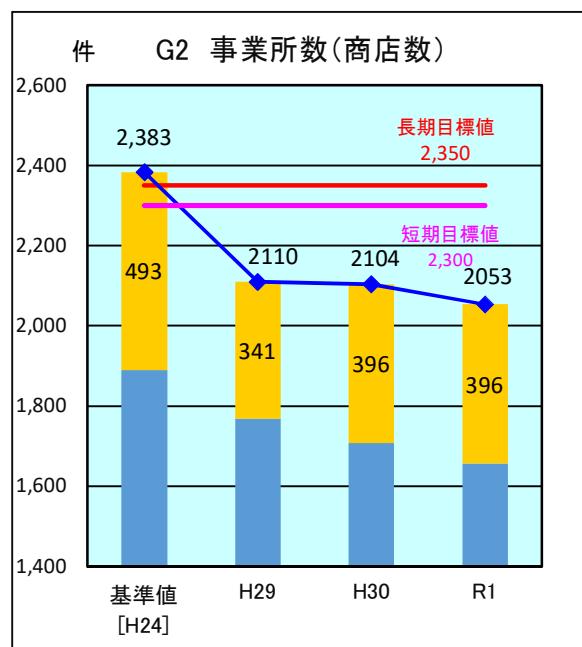
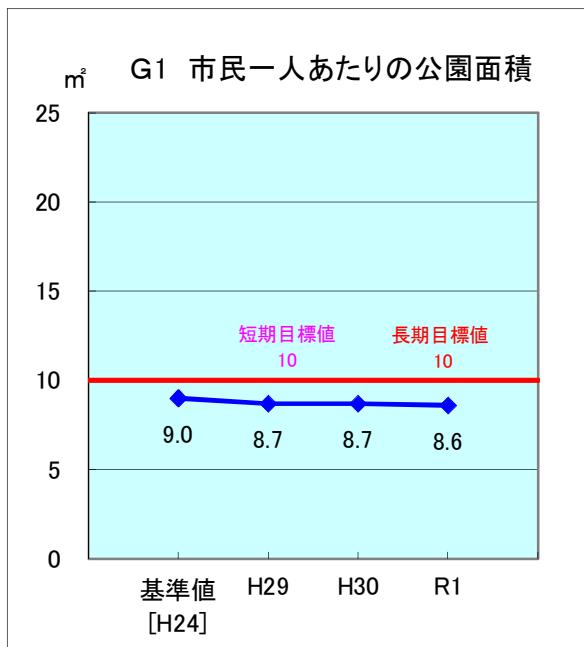
成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	まちなみや道路景観に対する満足度	34.3	%	38.5	35.3		45

※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
G1	市民一人あたりの公園面積	9	m ²	8.7	8.7	8.6	10
G2	事業所数(商店数)	2,383	件	2,110	2,104	2,053	2,350
		内商店数 493		内商店数 341	内商店数 396	内商店数 396	
G3	まちなみ保存地区数	0	地区	0	0	0	2

【令和元年度の結果と今後の展開】

本市らしさを生かした魅力的な地域環境を創造していくことが求められています。身近な地域に気軽に寄れるつどいの場(ほっとカフェ、ふれあいいきいきサロン、ぷらっとホーム)の推進をしています。また、赤池箕ノ手土地区画整理組合地内で予定する4箇所の都市公園における基本設計にあたりワークショップを開催したり、都市マスタープラン改定案の検討など本市の特徴である自然の多い景観を活かすため、今後もまちの景観を考えた取り組みを進めています。



G. まちなみ・まちかど

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
G-1 市民が憩え、 楽しめる場をつくる	1、市の中に シンボル的な 地区をつくる	緑と調和し、環境負荷の少ない、にぎわいのある中心核の形成	継続	・将来都市構造における拠点(都市マスターplan)の改定素案について検討を行った。	都市計画課
		図書館の情報交流拠点としての活用	継続	・入館者482,221人、貸出点数982,835点 ・主催事業、図書館まつり等を開催した。	図書館
	2、身近な地域に気軽に寄れる施設・広場をつくり育む	地域コミュニティ活動の拠点となる集会所等の支援	継続	・米野木区の集会所である「米野木区民会館」の整備を支援するため、建設費用に対する補助を実施した。 ・日進市地域コミュニティ推進事業補助金(活動拠点管理事業及び地域集会所建設等事業)の交付により、全19区の集会所等の維持管理及び改築や備品購入に対する補助を実施した。	市民協働課
		公園愛護会等、緑化推進団体の活動支援(重複記載 E-2施策3、K-1施策2)	継続		
	2、身近な地域に気軽に寄れる施設・広場をつくり育む	北高上緑地等の樹林地の活用(重複記載 K-1施策2)	継続	・市民団体に委託し、定期的な手入れ及び講座等を行った。	都市計画課
		福祉会館の利用促進(重複記載 K-1施策2)	継続	・利用者数(平日):175,015人[内訳 高齢者:42,621名、児童:64,675名、一般:67,719名] ・地域の住民が気軽に集う場所としての自由参加事業を実施した。[6館合計1,896人]	福祉会館
	2、身近な地域に気軽に寄れる施設・広場をつくり育む	学校施設の地域開放(重複記載 K-1施策2)	継続	・学校施設の地域開放を行った。[登録団体数 73団体、開放回数 251回]	教育総務課
		ふらっとホームの推進	継続	・リーフレット等を活用し、ふらっとホームを始めとするつどいの場のPRを行った。 ・ほつとカフェやふれあいきいきサロンとの全体交流会を開催し、情報交換を行った。[参加者延べ17,892人(前年度比711人減少)]	地域福祉課
	まちなみギャラリーの推進	まちなみギャラリーの推進	継続	・10/16～10/30日市川家住宅にて開催した。市内在住・在勤・在学から、絵画・写真・工芸彫塑など40点の出品があった。	生涯学習課

G. まちなみ・まちかど

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
G-2 商業空間の再生と創造を進める	3、身近にあってほしいお店を育みつくる	環境まちづくりに意欲的な商業者の支援	継続	・環境まちづくりサポートーズ制度パートナーシップ団体に登録した事業者のPRをHPで行った。[R元年度末:40団体]	環境課
		環境まちづくりと一体となった商業活動の振興	継続	・地球温暖化対策の一環として、市内の企業や商店、友好提携自治体と協力し、にっしんクールシェア・ウォームシェアを実施した。[R元年度:44箇所]	環境課
G-3 親しみと安らぎのあるまちの景観を育む	4、まちの景観を考えた建築・整備を進める	景観基本計画の検討	継続	・都市景観形成に関する方針(都市マスターplan)の改定素案について検討を行った。	都市計画課
		地区計画による地域まちづくりの推進	継続	・地区計画決定済みの6地区において、建築等の行為に先立ち届出を受け、適合確認を行った。[延べ116件] ・南山エピック地区において地区計画策定についての提案を受け、素案を作成し愛知県と下協議を行った。	都市計画課
		すぐれた景観のPR	完了	・愛知県が平成19年に選定した「美しい愛知づくり景観資源600選」を市HPに公開しPRしている。[市内登録箇所:岩崎城址公園、岩崎川、岩藤新池、鶴思慕池、東部丘陵、日進市東部丘陵水源の森]	都市計画課
	5、古き良き景観を守り育てる	文化財の保存	継続	・国登録有形文化財である旧市川家住宅の保存・活用事業の他、市の指定文化財の保護事業を実施した。	生涯学習課

H. みちと足



この分野は、「まち」に関わる要素のうち、特に道路、歩道、自転車道など人が移動する空間である「みち」と、移動手段を意味する「足」のうち誰でも利用できる公共交通を対象としています。

成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	自転車や徒歩による道路の利便性に対する満足度	21.6	%	24.3	22.5		33

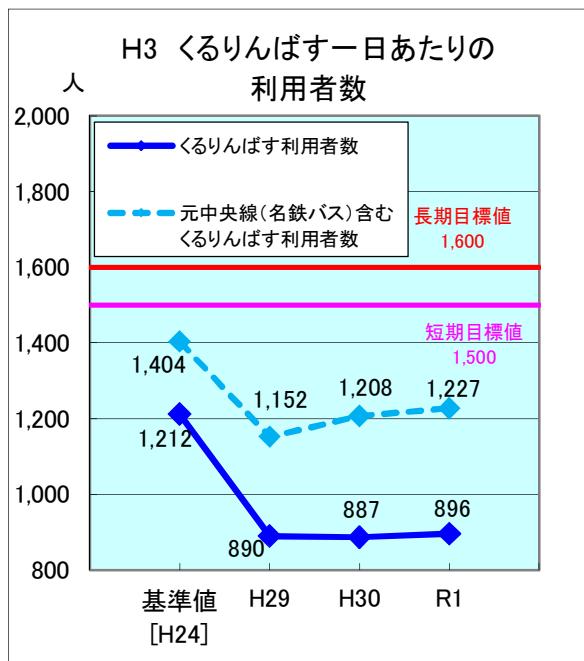
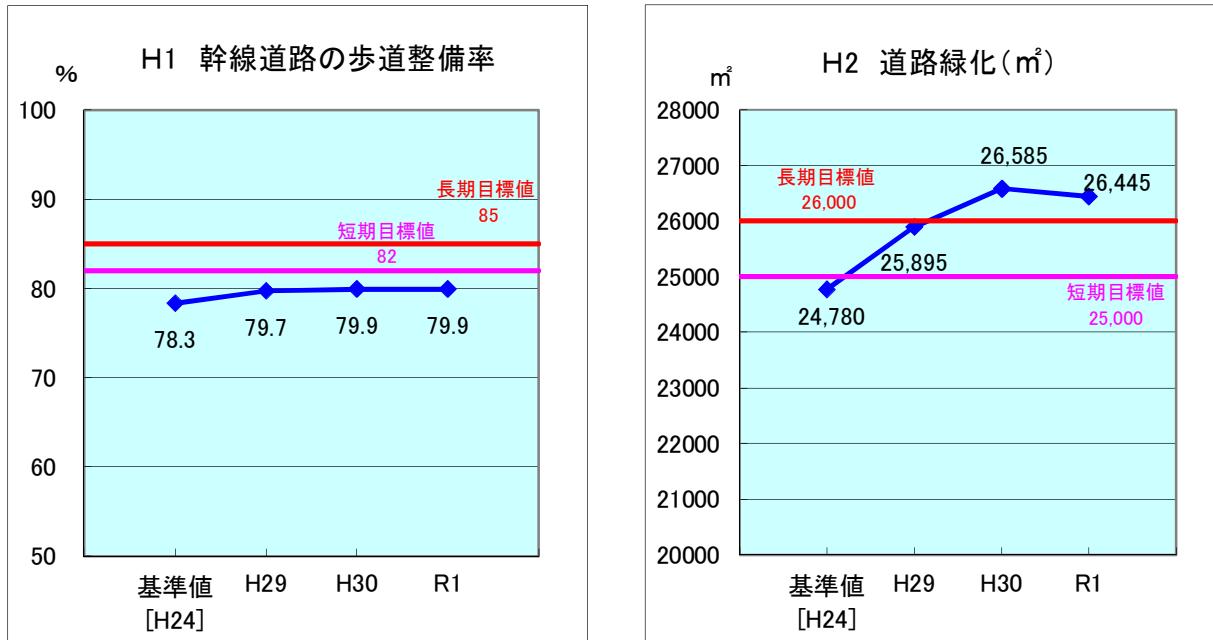
※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
H1	幹線道路の歩道整備率	78.3	%	79.7	79.9	79.9	85
H2	道路緑化(m ²)	24,780	m ²	25,895	26,585	26,445	26,000
H3	くるりんばすの一日あたりの利用者数 ※元中央線(名鉄バス)含む	1,404	人	890*	887*	896*	1,600

【令和元年度の結果と今後の展開】

道路等利用者の安全性、快適性を確保するため、道路の適切な維持管理をしています。歩道の整備については、通学路のカラー舗装、歩行者通行スペースの確保や危険交差点を強調するなど、交通安全の観点から推進しています。

本市は、人の移動や物流の手段として自動車に依存する割合が高い地域ですが、環境にやさしい移動手段として、くるりんばすなどの利用促進につながるイベントの開催やエコ・モビリティ・ライフを推進していくための周知啓発を行っていきます。



H. みちと足

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
H-1 歩道・車道を適正に整備する	1、環境と調和した適性な道路網とする	交通渋滞交差点の解消促進	継続	・赤池・浅田2号線において、右折待ち車両の渋滞を解消するために、道路改良工事に必要な用地測量を行った。	道路建設課
	2、市民ニーズに応じた歩道・自転車道をつくり育む	歩行者・自転車ネットワークの形成	継続	・竹の山68号線において、歩道を設置した。	道路建設課
		交通安全施設(信号機、横断歩道等)の推進	継続	・赤池小学校区・西小学校区において、通学路にカラー塗装を設置し、歩行者通行スペースの確保や危険交差点の強調を行った。	道路建設課
H-2 誰もが快適に感じる歩道をつくり育む	3、季節を感じる歩道をつくり育む	アスファルトでない舗装の採用	継続	・未実施	道路建設課
		季節を感じられる樹木等、歩道沿いの植樹帯の整備	完了	・赤池駅前線において、赤池箕ノ手緑化計画に沿った植樹帯を設置した。(平成28年度完了)	道路建設課
	4、バリアフリーな歩道をつくり育む	十分な歩道スペースの確保	完了	・歩道を拡幅した。[平成28年度:赤池駅前線及び白山黒石線] ・歩道を設置した。[平成28年度:藤島1号線]	都市計画課 道路建設課
		段差解消などバリアフリー化の推進	継続	・赤池箕ノ手地区都市公園基本設計において、人にやさしい街づくりの推進に関する条例の整備基準に即した配置となるよう検討を行った。 ・人にやさしい街づくりの推進に係る条例についてパンフレットによる周知を行った。	都市計画課 道路建設課
		屋外広告物に対する指導	完了	・歩道をセミフラット化し、視覚障害者誘導用ブロックを設置した。[平成28年度:赤池駅前線]	都市計画課
			継続	・許可申請に関する指導、違反広告物に対するパトロールや県への報告、ルール徹底のためのパンフレット配布を行った。[R元年度許可件数:106件]	都市計画課

H. みちと足

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
H-3 人や環境にやさしい公的な足を確保する	5.市民ニーズに応じた公共交通網をつくり育む	駅前駐輪場の整備・拡充(重複記載 I-3施策5)	継続	<ul style="list-style-type: none"> 放置自転車を撤去するなど、駅前駐輪場の維持管理を実施した。 米野木駅周辺を新たに自転車等放置禁止区域に指定した。 日進駅前駐輪場の有料化について、現在の利用状況や整備についての課題を把握し、実施方法の検討を行った。 	防災交通課
		エコ・モビリティ・ライフの推進(重複記載 I-3施策5)	継続	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ推進を目的とした市内での具体的行動事例集「にっしんクールライフハンドブック(平成29年度作成)」にエコモビについても記載し、配布を行った。 環境まちづくりサポーターズ会員向けメール配信で、エコモビについて啓発を行った。 職員の通勤について、エコ・モビリティ・ライフ通勤を推奨した。[実施回数月2回] 公共交通(くるりんばす)をPRするイベントを開催し、公共交通の積極利用を促した。 市民まつりでくるりんばす車両を展示し、市民への利用を促した。 	防災交通課 環境課
		東部丘陵線(HSST)、赤池駅、日進駅、米野木駅への有効なバス路線の確保	継続	<ul style="list-style-type: none"> 長久手古戦場駅(五色園線)、赤池駅(赤池線、梅森線)、日進駅(赤池線、米野木線、循環線)、米野木駅(三本木線、米野木線)にくるりんばすの乗り入れを行った。 	防災交通課
		バス停付近の環境整備	継続	<ul style="list-style-type: none"> バス停付近の清掃等を行い、待合環境の快適度の向上に努めた。 おりど病院のバス停において、乗降口の縁石位置を改修した。 	防災交通課
		市民・利用者を対象としたアンケートの実施	継続	<ul style="list-style-type: none"> 未実施 [平成30年度実施のアンケート調査の精査・分析を行った。] 	防災交通課
		公共交通機関の維持発展を図るための検討	継続	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通会議を開催した(3回)。 	防災交通課

I. 暮らし全般・エネルギー



この分野は、「ライフスタイル」に関わる要素のうち、暮らしに対する根本的な価値観や生き方、エネルギー利用、移動手段など日常生活におけるあらゆる環境配慮に関する行動・行為を対象としています。

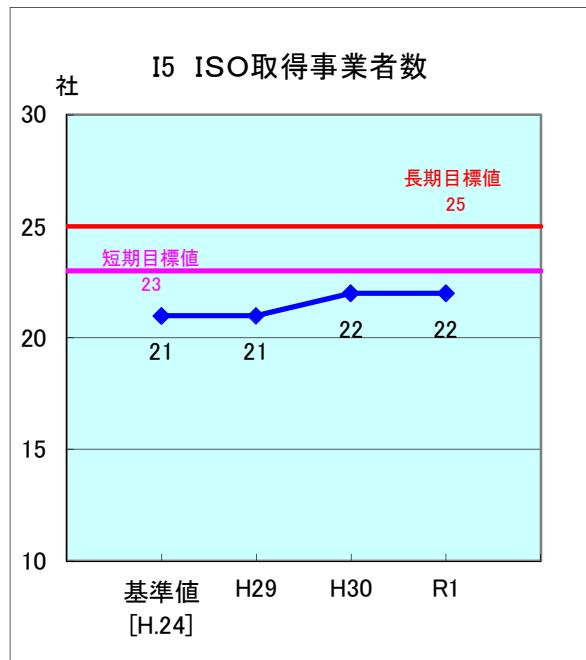
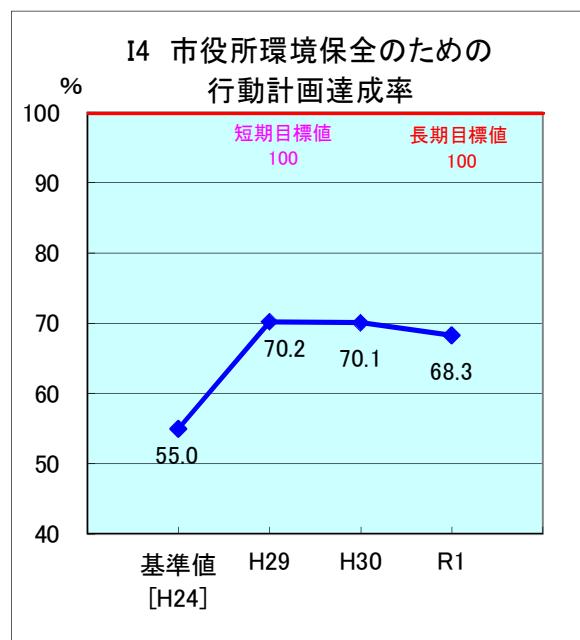
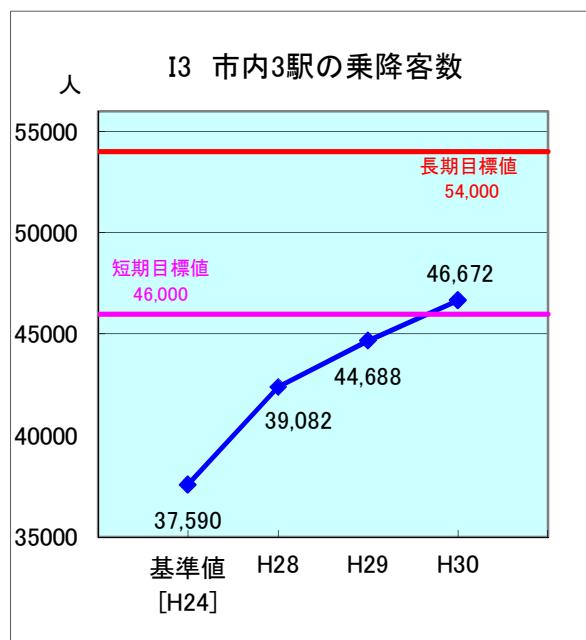
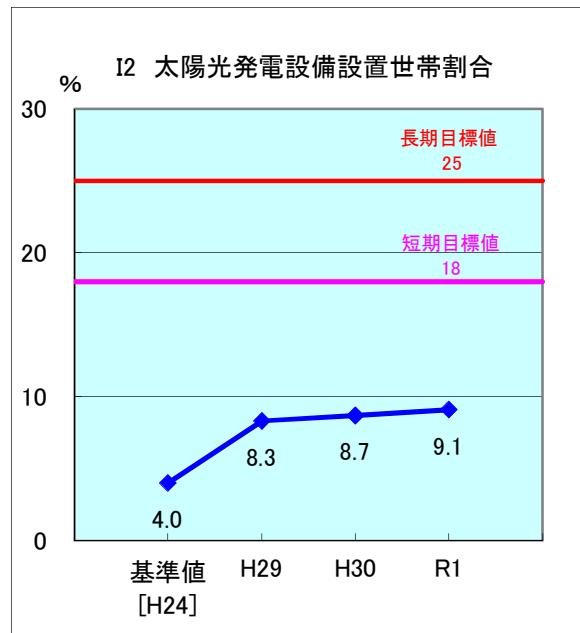
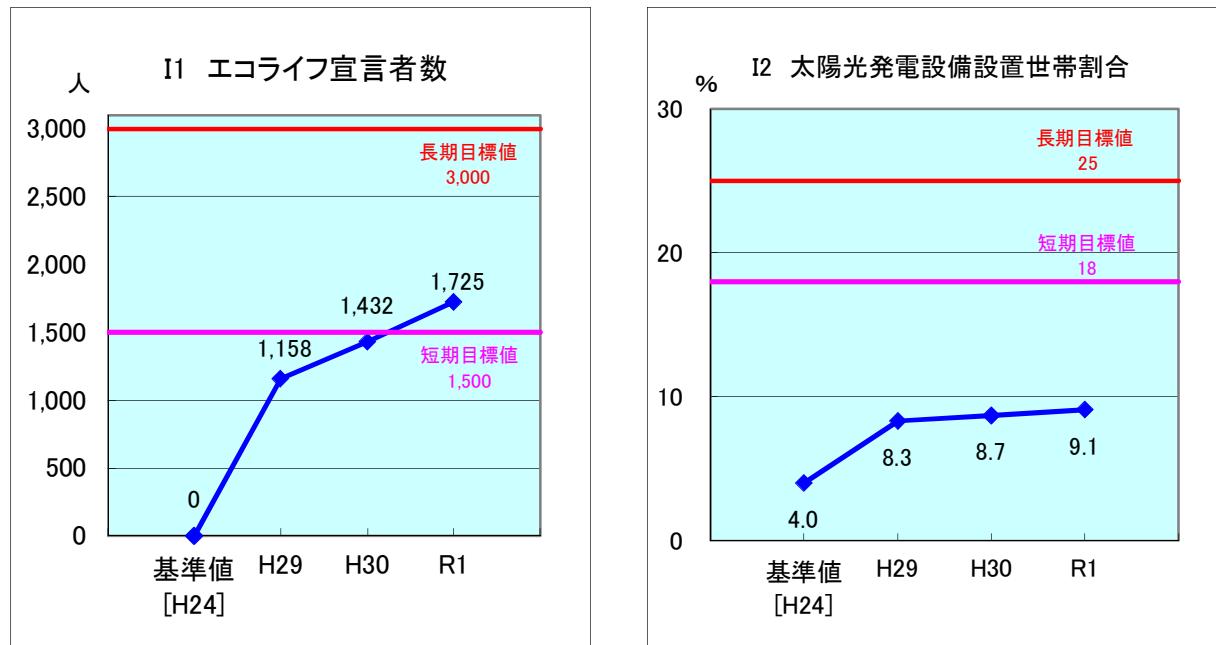
成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	環境にやさしいまちづくりに対する満足度	41.9	%	47.2	43.6		58

※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
I1	エコライフ宣言者数	-	人	1,158	1,432	1,725	3,000
I2	太陽光発電設備設置世帯割合	4	%	8.3	8.7	9.1	25
I3	市内3駅の乗降客数	37,590	人	44,688	46,672	12月末頃 値取得予定	54,000
I4	市役所環境保全のための行動計画達成率	55	%	70.2	70.1	68.3	100
I5	ISO取得事業者数	21	社	21	22	22	25

【令和元年度の結果と今後の展開】

地球温暖化対策の取り組みとして、家庭における省エネ・創エネ・蓄エネ機器の推進を目的とした地球温暖化対策機器設置費補助事業や子どもへの省エネ教室等を実施し、温室効果ガスの削減に向けて普及啓発をしています。今後も、暮らしにおける環境保全行動につながるよう情報の発信に努めるとともに、庁舎内の省エネ行動の推進と市民や事業者と協力した温室効果ガスの削減に向けて、取り組みを進めています。



I. 暮らし全般・エネルギー-

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
I-1 暮らし全般を 問い合わせ直す	1、エコライフ に関する情報を 広め、エコラ イフを楽しむた めの機会・人 の輪をつくる	エコライフに関する PR	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ推進を目的とした市内での具 体的行動事例集「にっしんクールライフ ハンドブック(平成29年度作成)」にエコ モビについても記載し、配布を行った。 ・環境に関する情報をまとめた「環境新 聞」を作成し、各区に回覧して情報を発 信した。 ・広報の6月と12月、2月に環境に関す る特集記事を掲載した。また市HPで環 境に関する情報などを発信している。 ・環境まちづくりサポーターズ会員に向 け、月1回メール配信にて環境に関する 情報などを発信している。 	環境課
				分野別計画「L. 遊 びと学び」に記載	
I-2 省エネルギー・ 新エネルギー を広める	2、スローライ フな生き方の パラダイムシフ トを進める	エコファミリー制度 の推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度より開始した環境まちづく りサポーターズ制度にて推進している。 [会員登録数: 2,170人] 	環境課
		にっしん子どもエコ クラブの推進(重複 記載 L-4施策15)	完了	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に環境課窓口だけでなく、 福祉会館においてもこどもエコクラブに 加入することができるようとした。 	環境課
		にっしんのんびり 村の推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・市HPでこどもエコクラブメンバーの募 集を周知した。 	環境課
I-2 省エネルギー・ 新エネルギー を広める	3、電気・ガス などの省エネ エネルギーを進め る	省エネ・新エネの 普及啓発	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度は愛知県地球温暖化防 止センターとの協働により、また平成28 年度からは環境省から補助金を受け、 にっしん子ども省エネ俱楽部事業を推 進し、子どもを通した家庭の省エネ化を 目指した講座を開催している。[延べ参 加者: 2171人] 	環境課
			完了	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に環境課窓口だけでなく、 福祉会館においてもこどもエコクラブに 加入することができるようとした。 	環境課
		CO2排出量の「見 える化」の推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・市HP等でエコ行動見える化ラベルの 周知を行った。[家庭向け、事業所向け 各3種類] 	環境課
		省エネ住宅及び省 エネ機器の促進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ機器に補助金の交付を行つ た。[高効率給湯器(エネファーム)設置 費補助金31件][太陽熱利用システム設 置費補助金0件][エコ窓(高断熱窓)改 修補助金8件] 	環境課 都市計画課

I. 暮らし全般・エネルギー-

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
I-2 省エネルギー・ 新エネルギーを広める	4、太陽光発電などの新エネルギーの導入を広める	新エネルギー導入に対する支援	継続	・新エネルギー機器に補助金の交付を行った。[太陽光発電システム設置費補助金78件][蓄電池79件、HEMS38件、電気自動車充給電設備2件]	環境課
I-3 地球にやさしい移動手段を広める	5、自転車・徒歩、公共交通機関による移動を広める	駅前駐輪場の整備・拡充(重複記載 H-3施策5) エコ・モビリティ・ライフの推進(重複記載 H-3施策5)	継続 継続		
I-4 オゾン層保護と地球温暖化対策を進める	6、フロン対策・地球温暖化対策を進める	フロンの適正回収とノンフロン製品の普及促進 環境保全創出のための行動計画の推進 地球温暖化対策地域協議会の施策推進	継続 継続 継続	<ul style="list-style-type: none"> ・家電リサイクル法、自動車リサイクル法等の周知を行った。 ・サマースタイルキャンペーンを実施した。(5/1~10/31) ・ウォームビズ及び室内の温度調整を実施した。(12/1~3/31) ・空調更新時に高効率機器の導入 ・深夜電力の活用 ・開庁時間以外及び昼休みの照明器具の消灯を実施した。 ・長時間、席を外す際はパソコンモニターの消灯を呼びかけましたが、徹底されていないので、推進員を通して取組みへの協力を呼びかけた。 	環境課 人事課 財務政策課 環境課
I-5 継続的・総合的な環境配慮を進める	7、あらゆる事業活動に継続的改善の仕組みを広める	ISO取得支援 事業所における環境学習の推進	継続 継続	<ul style="list-style-type: none"> ・市内企業22社がISO14001を取得しており、取得企業にはにつしんわいわいフェスティバルへの参加を呼びかけ、参加した企業が自社の環境への取り組みをパネル展示にてPRする機会を提供了。 ・第4回につしんわいわいフェスティバルにおいて、企業ブースで参加企業が実施している環境への取り組みや啓発を周知した。 	環境課 環境課

J. 生活と廃棄物



この分野は、「ライフスタイル」に関わる要素のうち、購買、消費、ごみの排出といった生活と廃棄物に関する行動・行為を対象としています。

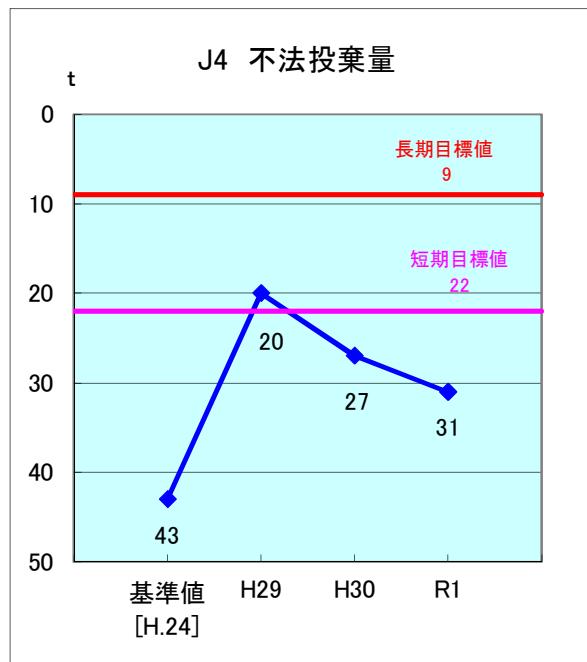
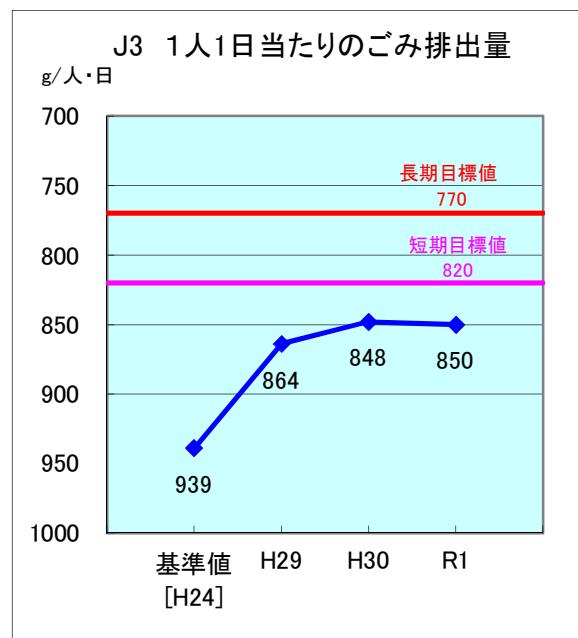
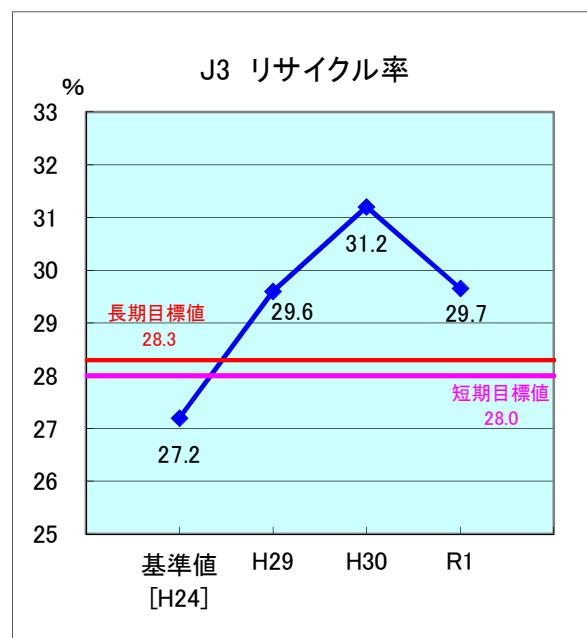
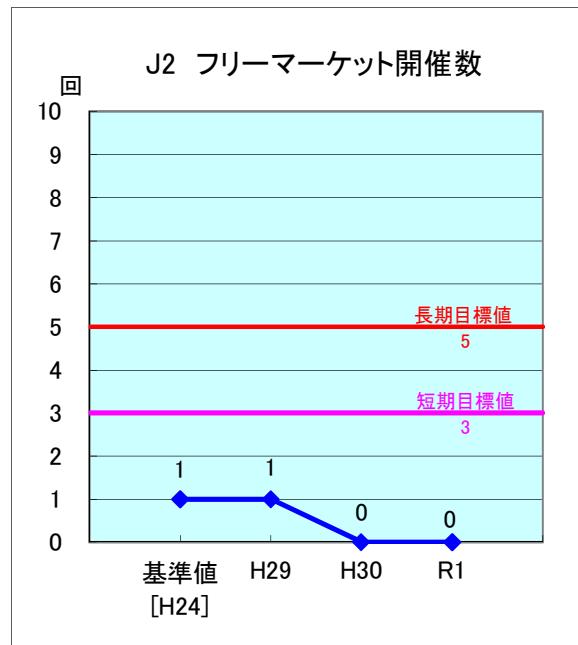
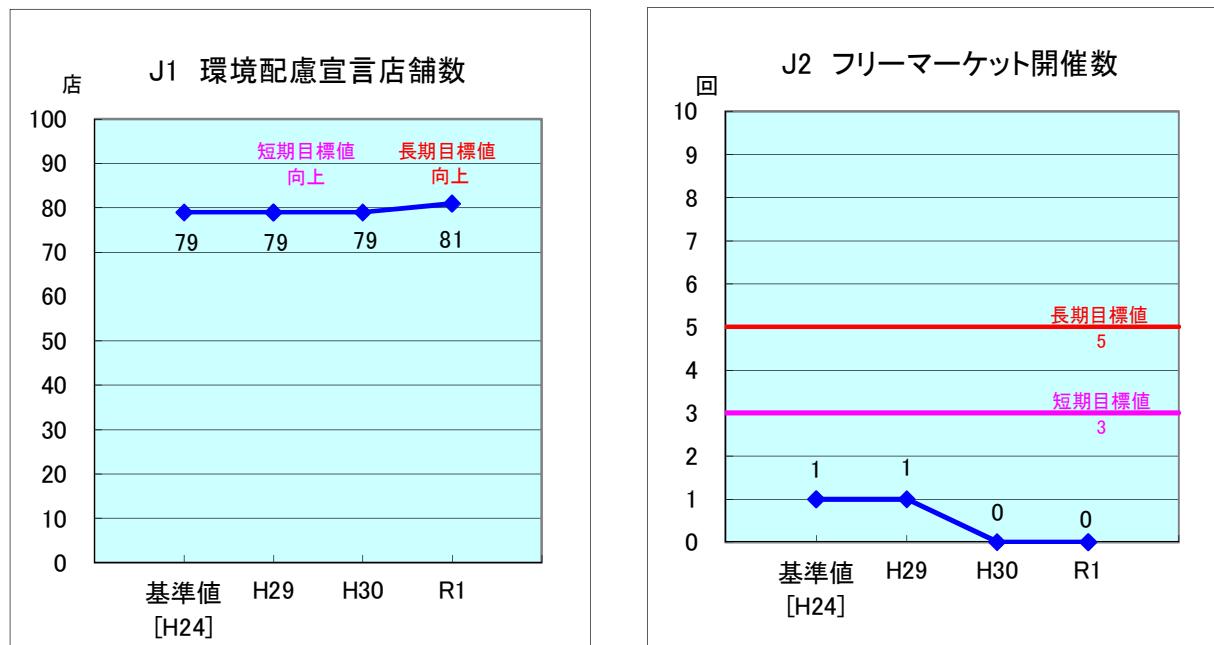
成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	ごみ処理等の環境対策に対する満足度	62.7	%	63.9	59.0		74

※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
J1	環境配慮宣言店舗数	79	店	79	79	81	向上
J2	フリーマーケット開催数	1	回	1	0	0	5
J3	リサイクル率	27.2	%	29.6	31.2	29.7	28.3
J4	1人1日当たりのごみ排出量	939	g/人・日	864	848	850	770
	不法投棄量	43	t	20	27	31	9

【令和元年度の結果と今後の展開】

限られた資源を有効に利用するため、ごみの資源化や減量化の取り組みが重要です。その中で、過剰包装の削減、マイバックの普及促進や食品ロスの削減など、身近に取り組める環境保全行動について啓発を行っています。家庭から出るごみの多くを占める生ごみを減らす観点から、電動生ごみ処理機などの利用推進をしていますが、購入補助件数は伸び悩んでいる状況であるため、引き続き市民に対して広く周知をしていきます。また、不法投棄防止のために巡回パトロールをすることなどにより、不法投棄されない環境づくりにも努めています。



J. 生活と廃棄物

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
J-1 環境にやさしい買い物を広める	1、その必要性と手法を知る場・機会を増やす	分野別計画「L. 遊びと学び」に記載	継続		
	2、環境にやさしい買い物方法が選択できるようにする	マイバックの普及促進	継続	・レジ袋の有料化を実施した。[新規0件、継続13店舗]	環境課
		グリーン購入、グリーンコンシューマ活動の推進	継続	・環境保全・創出のための行動計画の中でグリーン購入を推進した。 ・日進市公共施設グリーン購入指針及び日進市公共施設グリーン購入計画の改定に向けて検討した。	環境課
		過剰包装を減らす取組の推進	継続	・環境新聞や家庭ごみ＆資源の出し方ガイドブック、環境まちづくりサポートーズ会員向けメール配信にて過剰包装についての記事を掲載し、削減に向けた啓発を行った。	環境課
		環境配慮店等仕組みづくりの検討	継続	・平成26年度環境まちづくりに関するサポートーズ制度などの取組みについて調査研究し、平成27年度よりパートナーシップ団体登録を推進している。[R元年度末:40団体]	環境課
J-2 物を大切に使う暮らしを広める	3、物を大切にする行動や意識を育む	フリーマーケットの開催支援	継続	・未実施	環境課
	4、リサイクルショップ等の情報提供	リサイクルショップ等の情報提供	継続	・エコドームにある「あいさ」の紹介や尾三衛生組合のエコサイクルプラザの紹介などをした。	環境課
J-3 地球資源を活かすリサイクルを進める	5、リサイクルに対する情報を共有し意識を育む	パンフレット、広報誌、ホームページ等でのわかりやすい周知	継続	・3月号広報の折込で「家庭ごみ＆資源の出し方ガイドブック」を全戸配布した。また、同内容をHPに掲載した。	環境課
		分野別計画「L. 遊びと学び」に記載	継続		

J. 生活と廃棄物

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
J-3 地球資源を活 かすリサイク ルを進める	6、多様で分別 しやすいリサイ クルルートを充 実させる	容器包装リサイク ル法・家電リサイク ル法に基づく計画 的な回収	継続	・家庭ごみ＆資源の出し方ガイドブック を作成し、適切な排出方法を周知した。	環境課
		市内各地の資源回 収拠点の充実及び 常設型資源回収場 所の充実	継続	・資源回収拠点を設置し、市民が資源 ごみを排出しやすいようにした。[既存 105箇所]	環境課
		資源ごみ回収団体 支援	継続	・資源ごみ回収団体に重量補助と回数 補助の2つの補助金を交付した。[R元 年度:128団体]	環境課
		生ごみ処理機の普 及促進	継続	・電動生ごみ処理機購入補助、生ごみ 堆肥化容器購入補助金を交付した。[R 元年度:35件]	環境課
J-4 ごみは適正に 処理されるよう にする	7、環境に配慮 したごみ処理 を進める	ごみの計画的な収 集及び適正処理	継続	・一般廃棄物処理基本計画に基づき適 正にごみを収集した。[総収集量: 22,151トン 前年比▲141t]	環境課
		市収集ごみ集積所 の維持管理	継続	・必要に応じ、集積所のネットや看板を 交換、パレテナ(鉄製ごみ籠)を設置す るなど維持管理を行った。	環境課
		粗大ごみの効率的 な収集及び適正処 理	継続	・粗大ごみの受付業務を外部委託し、 利用者のサービスの向上を図った。[総 収集量255トン 前年比+12t]	環境課
		ごみ処理業者に対 する指導、監視	継続	・尾三衛生組合で搬入されるごみの検 査を抜き打ちで実施した。[R元年度:2 事業者]	環境課
		不適正排出者への 指導・啓発	継続	・不適正排出者については、追跡調査 を行い指導等をした。	環境課
	8、不法投棄を 撲滅させる	不法投棄多発地区 の監視	継続	・定期的にパトロールを実施し、不法投 棄を発見した場合は警告シールを貼る などの対応をした。	環境課
	不法投棄を防止す る対策の推進(重 複記載 A-4施策 8)	継続			

K. コミュニティ



この分野は、「コミュニティ」に関わる要素で、近くに暮らす人々、環境に関する意識・目的を共有する人々、事業所など様々なつながりを対象としています。

成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	身近な地域活動が活発であると思う市民の割合	32.8	%	37.7	36.7		43

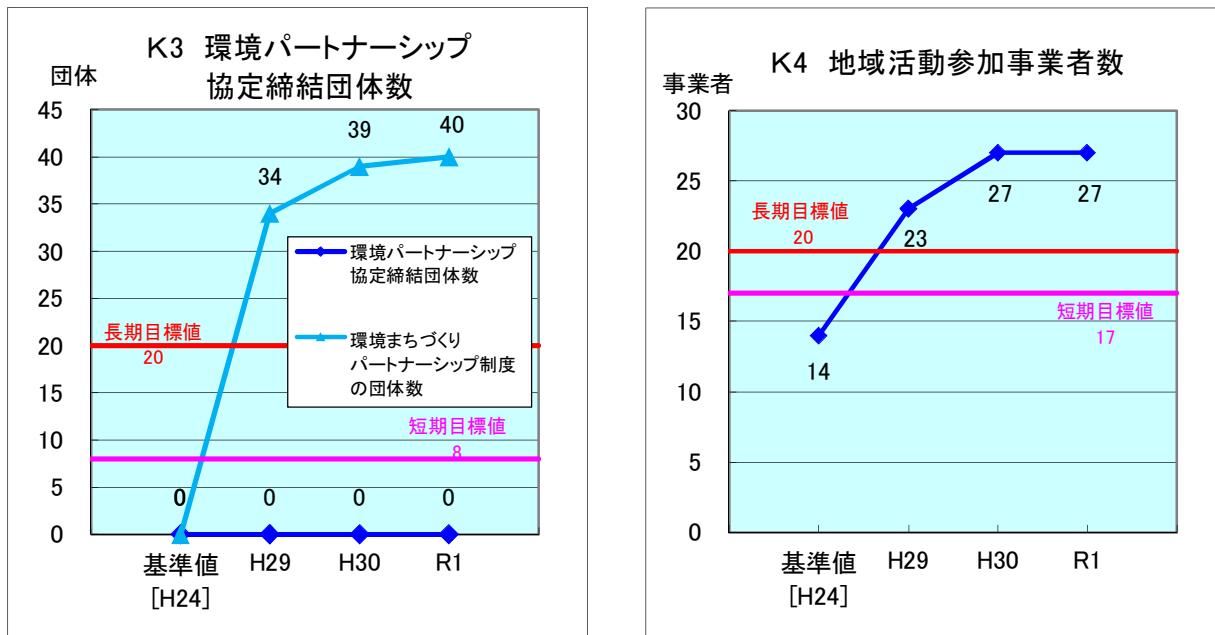
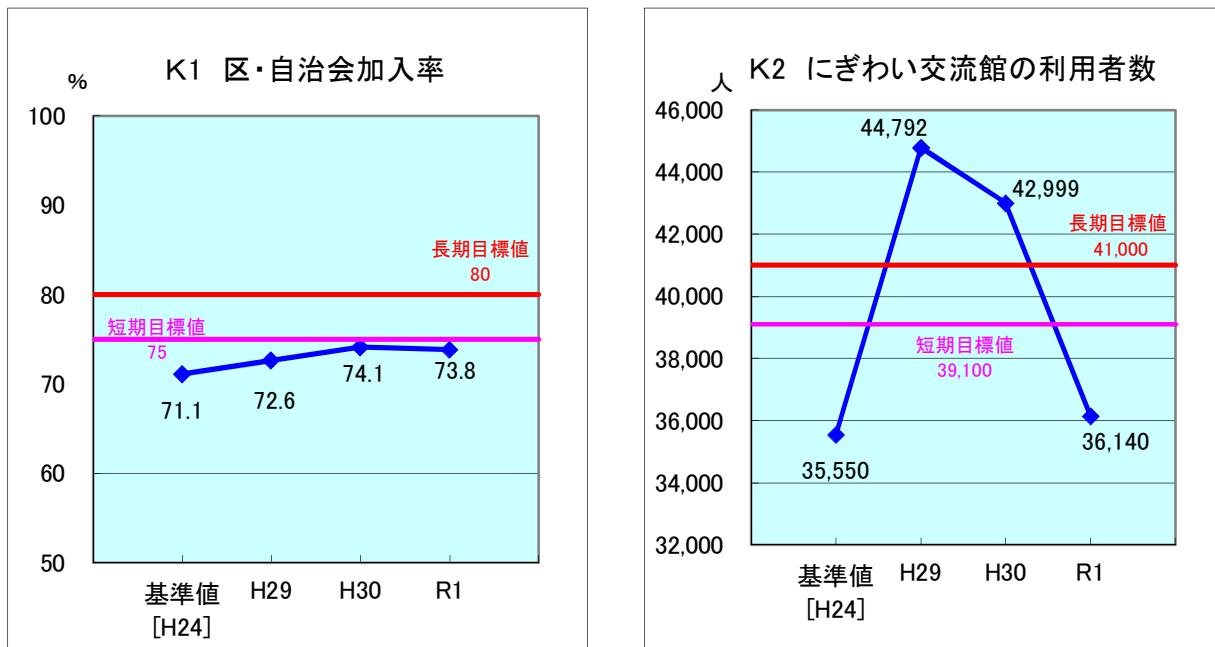
※ 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
K1	区・自治会加入率	71.1	%	72.6	74.1	73.8	80
K2	にぎわい交流館の利用者数	35,550	人	44,792	42,999	36,140	41,000
K3	環境パートナーシップ協定締結団体数 (環境まちづくりパートナーシップ制度に統合)	-	団体	- (34)	- (39)	- (40)	20
K4	地域活動参加事業者数	14	事業者	23	27	27	20

【令和元年度の結果と今後の展開】

環境まちづくりへの参加を進めるために、地域のコミュニティが活性化していくことは重要な要素です。本市は、各地で自治会離れが進んでいる中、自治会加入率の維持に努めたり、地域自治組織が行う様々な活動や活動拠点である公民館や集会所等の整備に対し補助金を交付したりするなどの支援を図っています。

また、地域における多様な人材の活用など、環境まちづくりを推進していくために、市の取り組みだけではなく、市民・事業者等と連携・共働しながら取り組みを進めています。



K. コミュニティ

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
K-1 環境まちづくり への参加をす すめる(意識 啓発)	1、身近な地縁 コミュニティの 活性化をはかる	地域コミュニティ活 動支援	継続	・日進市地域コミュニティ推進事業補助 金(地域振興事業)の交付により、地域 が実施する事業にかかる費用に対する 補助を実施した。	市民協働課
		家庭教育推進委員 会の組織運営体制 の支援・強化	継続	・市内9学区家庭教育推進委員会に対 し、地域の特性を活かした地域ぐるみ の家庭教育活動を委託し実施した。ま た、家庭教育推進委員会委員に対して 講演会を実施した。	生涯学習課
		地域の伝統・行事 の伝承	継続	・区や自治会が行った納涼まつりや ウォークラリーなどの自主交流事業に 対して補助を実施し、活動の促進が図 られた。 ・日進市民俗芸能連合会へ補助金を交 付し、加入団体により公民館等で伝統 芸能の伝承を行い、市民会館等で発表 会を開催した。	生涯学習課 市民協働課
	2、様々な世代 が知り合い、 交流する場や 機会をつくる	地域コミュニティ活 動の拠点となる集 会所等の支援	継続	・米野木区の集会所である「米野木区 民会館」の整備を支援するため、建設 費用に対する補助を実施した。 ・日進市地域コミュニティ推進事業補助 金(活動拠点管理事業及び地域集会所 建設等事業)の交付により、全19区の 集会所等の維持管理及び改築や備品 購入に対する補助を実施した。	市民協働課
		公園愛護会等、緑 化推進団体の活動 支援(重複記載 E-2施策3、G-1施 策2)	継続		
		北高上緑地等の樹 林地の活用(重複 記載 G-1施策2)	継続		
		学校施設の地域開 放(重複記載 G-1 施策2)	継続		
		オアシス運動の推 進	継続	・PTAの活動としてあいさつ運動を各校 で実施した。	学校教育課
		地域と学校との連 携推進	継続	・地域清掃やPTAの清掃活動などで、 様々な世代と行動を共にし、環境まち づくりの参加した。	学校教育課
		生涯学習4Wプロ グラムの推進	継続	・「いつでも・どこでも・だれでも・なんで も」の4Wプランの基本目標に基づき、 様々なジャンル・時間帯・対象者の学 習講座を行った。	生涯学習課

K. コミュニティ

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
K-1 環境まちづくりへの参加をすすめる(意識啓発)	2、様々な世代が知り合い、交流する場や機会をつくる	ぷらっとホームの推進(重複記載 G-1施策2)	継続		
		福祉会館の利用促進(重複記載 G-1施策2)	継続		
		高齢者と児童との交流機会の創出	継続	・コミュニティサロンで近隣の保育園児とのふれあい行事を実施した。	子育て支援課 福祉会館
K-2 環境まちづくりへの参加をすすめる人と組織を育む(人づくり)	3、環境まちづくりを進めるリーダーの育成	地域リーダー育成支援	継続	・市民活動団体によって、ボランティアが初めての方向けのボランティア体験プログラムを作り参加を募集した。[参加者:延べ13名] ・市民活動団体に向けて専門的で信頼性の高い学びの場を提供するために「NPO読書会」を開催した。[参加者:延べ8名]	市民協働課
		人材バンクの創出(重複記載 L-3施策4)	継続	・人材情報「まちかどネットワーク」にて、知識を活かしたい人の情報を登録し、市民の学びの目的にあった講師の紹介の場を提供した。 ・まちかどネットワーク登録講師による「市民企画講座」を実施した。 ・講座やイベントを通して創出できなか検討している。	環境課 生涯学習課
		地域で伝統・技術を持った人の発掘と活用	継続	・にっしん水生生物調査を、水中生物に詳しい地域の方を講師として実施した。[参加者:127名] ・旧市川家活用協力会による年中行事展示やクド等を使った昔の暮らし体験講座を行った。	環境課 生涯学習課
	4、地域における多様な人材の発掘、活用	学び教える場(寺子屋等)の創出	継続	・文化財ガイド養成講座を開講し、国登録有形文化財である旧市川家住宅のガイドを実践する人材を養成した。 ・親里里山体験を開催し、竹を使ったおもちゃなどの遊びを教える場を提供了。[参加者:69名]	環境課 生涯学習課
	5、環境まちづくり組織を支える担い手の育成	様々な関心・テーマの市民活動のネットワーク化	継続	・わいわいフェスティバルを開催し、市民活動の啓発と団体の交流を促した。[来場者:3,700名] ・にぎわい交流館にて日進まちづくりゼミを3回開催した。[参加者:延べ44名]	市民協働課

K. コミュニティ

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
K-3 環境まちづくり を進める仕組 みをつくる(仕 組みづくり)	6. 条例・補助 制度などの支 援制度の整備	自治基本条例、市 民参加及び市民自 治活動条例の推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・日進市自治推進委員会を3回開催した。 ・令和元年度採用職員向け研修で、自治基本条例を説明した。 ・市民課、税務課、産業振興課及び保健センターで使用している窓口用封筒に自治基本条例の啓発文を掲載した。 ・広報につしん10月号で、自治基本条例啓発記事を掲載した。 ・自治基本条例啓発マンガパンフレットを転入者へ配布した。 ・自治基本条例啓発マンガタペストリー、立て看板を図書館で展示した。 ・令和2年度係長級職資格試験の学科試験出題範囲に自治基本条例を含めた。 ・市民参加の手続き選定に当たり、その対象事業ごとにより適した手法を選んでいく運用を継続し、より丁寧な市民参加が図れる体制を継続した。 	企画政策課 市民協働課
		NPOの組織化(法 人化)に対する支 援	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい交流館において、各種相談業務を継続的に実施しており、NPOの組織化(法人化)の相談についても対応している。 	市民協働課
		環境まちづくり活動 の支援(補助制度に よる市民活動の支 援、市民活動の情 報発信支援など)	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度からは、市民協働課所管の市民活動推進補助金から環境部門を統合し、環境まちづくり活動の支援は、環境課所管の公募提案型につしんESD事業で実施している。[10団体] 	環境課
7. 近所での助 け合いの仕組 みと意識を育 む	地域通貨(エコマ ネー等)の推進	地域通貨(エコマ ネー等)の推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・環境まちづくりサポートーズ制度を創設し、イベント参加者にサポートーズポイントを配布した。 ・社会福祉協議会と連携しながら、支え合い助け合いの地域づくり(ワンコインサービス)の導入支援を行っている。 	環境課 地域福祉課
		自主防災・防犯組 織の育成・強化の 推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、防犯団体の活動に支援を行った。 ・防災、防犯団体による年末夜警合同出発式を開催し、機運の醸成を計った。 ・香久山小学校にて、「避難所開設運営訓練」を実施した。 	防災交通課

K. コミュニティ

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
K-3 環境まちづくりを進める仕組みをつくる(仕組みづくり)	8、環境まちづくり活動にかかる情報の提供	情報や活動の場の提供など市民活動への支援	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・広報につしんで市民活動の情報提供を行った。[特集記事年2回] ・ウェブサイトやメールマガジンによる情報発信を行った。[閲覧数: 56,988回、メールマガジン発行: 24回] ・にぎわいNEWSを2回発行し、地域回覧及び公共施設や大学等に設置した。[各回3,500部発行] ・にぎわい交流館サロンや公共施設に市民活動団体のイベントカレンダー、チラシ、ボランティア募集等を設置した。 ・SNSによる情報提供を行った。 	市民協働課
K-4 環境まちづくりへの多様な組織の参加、共働を促す(連携強化)	9、地域型活動とテーマ型活動の共働をすすめる	テーマ型の活動団体と地縁コミュニティとの共働推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・日進市市民自治活動推進補助金の交付により団体の支援を通してテーマ型団体と地縁型コミュニティとの協働を推進した。 ・コミュニティ公募提案型(テーマ提示型)事業の募集を行い、提案があり、採択された団体と契約し事業を推進した。[10団体] 	市民協働課 環境課
	10、事業者の参加をすすめ、交流・共働の機会をつくる	事業者参加の市民会議の設置	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と事業者が参加する会議として、地球温暖化対策地域協議会を年2回開催した。 	環境課

L. 遊びと学び



この分野は、「遊びと学び」に関する要素のうち、環境まちづくりやそれにつながる活動を進める原動力となる、環境共育(ESD)、環境に関する情報受発信及び環境まちづくりを進めるうえでの子どもから高齢者までの様々な世代の参加を対象としています。

成果指標		基準値【H23】		H28の値	H30の値	評価	長期目標値【R5】
★	【平成23年調査】 環境問題に関心を持ち、自ら学んでいる市民の割合	28.1	%	—	—	—	38
★	【平成26年調査】 環境問題について、自ら学習に取り組んでいる市民の割合	—	%	20.9	20.1	(?)	38

※1 成果指標の満足度については、平成26年度より2年に一度の調査

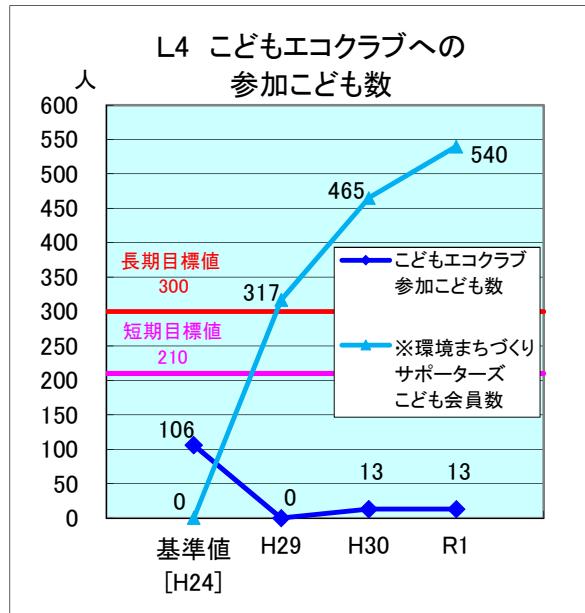
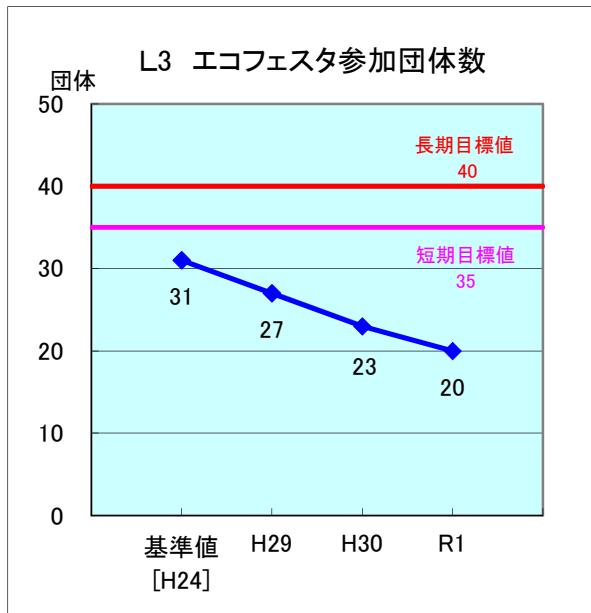
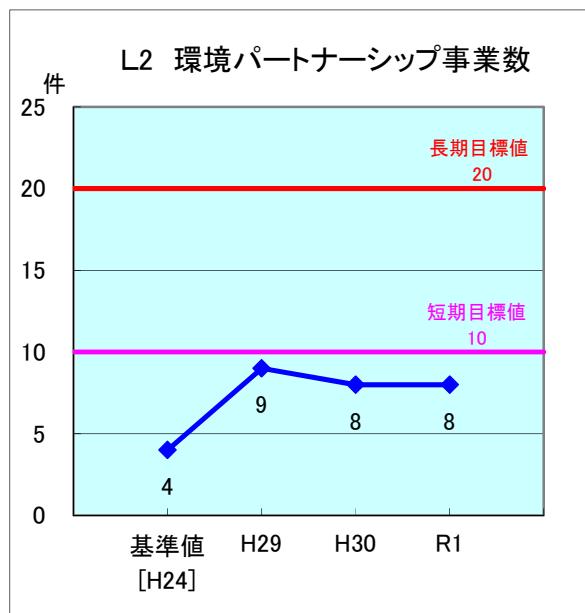
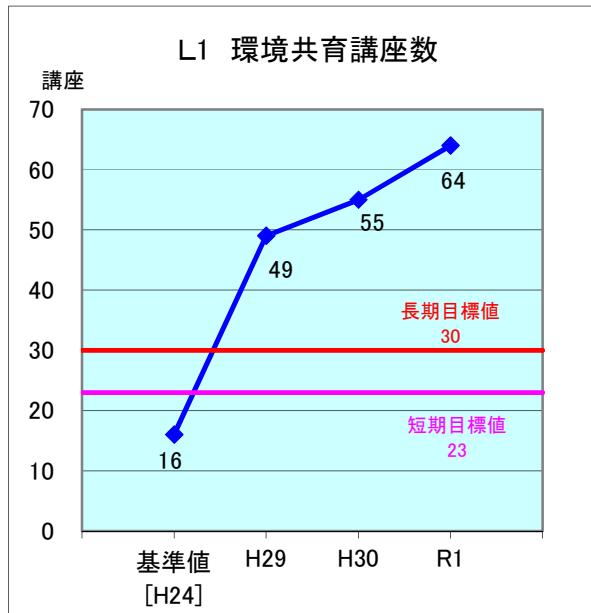
※2 平成23年と平成26年の調査で、質問が変更になったため2段に分かれています。

また、成果指標についてもH23の基準値とは質問が変更されているため、この指標については、H26の数値を基準値として扱うこととしています。

進行管理指標		基準値【H24】		H29の値	H30の値	R1の値	長期目標値【R5】
L1	環境共育講座数	16	講座	49	55	64	30
L2	環境パートナーシップ事業数	4	件	9	8	8	20
L3	エコフェスタ参加団体数 (H28～わいわいフェスティバルに統合)	31	団体	27	170(23) ※()は参加環境団体数	119(20) ※()は参加環境団体数	40
L4	こどもエコクラブへの参加こども数 (環境まちづくりサポーターズこども会員数)	106	人	0 (317)	13 (465)	13 (540)	300

【令和元年度の結果と今後の展開】

環境、貧困、人権、平和など、世界中には様々な課題があり、自分たちの世代だけではなく、未来の世代までみなさんがずっと幸せに暮らしていくために、ESD(持続可能な開発のための教育)の考え方による環境学習の推進が必要です。市民の自発的な環境学習のきっかけとなるように魅力的なESD講座を事業者や市民団体等と協力して開催し、ESDを推進していきます。また、環境基本計画を推進するパートナーシップ事業者への呼びかけ、わいわいフェスティバルへの参加や環境まちづくり活動を始めるきっかけづくりにもなる環境まちづくりサポーター事業も推進しながら進めています。



※R元年度末会員登録数 2,170人
(内訳:大人 1,630人、こども 540人)

L. 遊びと学び

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
L-1 環境共育・ESDの推進	1、水に関する環境共育の推進	天白川やため池を活かし、身近な水循環について学ぶ機会の創出、遊びや学びを共につくっていく人を育てます。	継続	<ul style="list-style-type: none"> 授業や部活動で天白川やため池の生きものを観察することにより、川や池の生態系を知り、身近な水循環について学んだ。 「天白川おもしろ体験バスツアー」と題し、天白川と触れ合うイベントを実施した。[参加者:17名] 	環境課 学校教育課
	2、緑に関する環境共育	日進に残された自然や水田等を活かし、ふれあえる場や機会の創出、遊びや学びを共につくっていく人を育てます。	継続	<ul style="list-style-type: none"> 農育体験を開催し、稻作と水田の生態を学ぶ講座を実施した。[参加者:105名] NPOと連携し、水田で生き物観察を行うなど共育プログラムを実施した。また、日進アグリスクール修了生で組織するNPOが福祉団体を支援する等広く市民と交流し農を展開した。地域において芋ほり体験等を継続的に実施し新しい担い手を育てた。 タケノコ掘り、竹炭作り等の北高上緑地里山体験イベントを開催し、里山に触れ合う機会を創出した。 [年間7回開催。年間延べ164人] 特色ある学校づくり事業の中で、畑や水田を利用し、地元の方などを講師として招き、野菜作りや米作りを実施した。 里山保全のための講座を開催し、里山に触れ合うイベントを実施した。[参加者:30名] 親子里山体験を開催し、里山で親子で里山の恵みについて体験するイベントを実施した。[参加者:69名] 	環境課 都市計画課 農政課 学校教育課
	3、まちに関する環境共育	大気や身近なまちとの関わりを、星空観察会やまち探検等をとおして知り、よりよい環境まちづくりを進める人を育てます。	継続	<ul style="list-style-type: none"> 各校でまち探検や社会見学等を実施し、自分たちの住むまちについて学んだ。 お宝スタンプラリーと題し、香久山古窯や岩崎城歴史記念館等で開催した。 	環境課 学校教育課 生涯学習課
	4、ライフスタイルに関する環境共育	地球温暖化、資源循環、廃棄物等について学ぶ機会の創出、身近な暮らしにおいて環境に配慮した行動ができる人を育みます。	継続	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題、資源循環や廃棄物等については、各校での社会科の授業や社会見学などで学んでいる。 小学生向けに以下の講座を開催した リサイクルツア:1回、21名 料理教室:1回、30名 夏休みせっけん教室:1回、17名 ・エコドームにおいて中学2年生の職場体験学習を行った。[市内全3校、計10名] 	環境課 学校教育課
	5、その他環境全般に関する環境共育	地球と自分たちとのつながりを意識できるような取り組みを進め、持続可能な社会を目指して、自ら進んで環境問題に取り組む人を育てます。	継続	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の授業から環境問題を学んだ。 行政で開催している環境関係の講座から環境問題を学んだ。 につしん子ども省エネ俱楽部事業で、子ども省エネ教室と題し、地球温暖化対策の普及啓発を実施した。[R元年度:4講座] 	環境課 学校教育課

L. 遊びと学び

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
L-2 地域や学校などで共に学ぶ 場と意識を育む	6、学校を拠点とした環境共育を広げる	児童・生徒向け環境共育プログラムの提供	継続	・小学校講座「ゲンジボタルの一生と折戸川の環境について」と題し、環境団体（折戸川にホタルを飛ばそう会）による出前講座を実施した。[計4校で開催 408人受講]	環境課
		ユネスコスクールの加盟促進	継続	・ユネスコの基本理念である、ESDの取り組みについて、広報にてPRをした。 ・必要に応じて、ユネスコスクール等に関する情報を収集し、各学校へ提供した。	環境課 学校教育課
	7、にっしんのんびり村を拠点とした環境共育を広げる	のんびり村での作業、体験イベントの開催	継続	・里山保全のための講座を開催し、里山に触れ合うイベントを実施した。[参加者:30名] ・親子里山体験を開催し、里山で親子で里山の恵みについて体験するイベントを実施した。[参加者:69名]	環境課
		昔ながらの暮らしを調べる	継続	・旧市川家にて、昔の暮らし体験講座を開催した。[参加者:168名] ・微生物を利用したエコ生活のススメを開催し、日本古来の「発酵食品」に着目し、微生物の力を学ぶ体験講座を行った。[参加者:20名]	環境課 生涯学習課
		のんびり村の充実と拡大(重複記載 L-2施策9)	継続	・北高上緑地など多くのエリアで活動が市民団体により行われている。	環境課
	8、地域を拠点とした環境共育(ESD)を広げる	地域の資源を活用した環境共育(ESD)の推進(重複記載 L-2施策9)	継続	・みちかな自然観察会を4回開催し、湿地やため池などその特色を活かした自然観察を実施した。[参加者:97名]	環境課
	9、ESDの担い手づくりの視点から気づき、学び、そして行動につなげるための場所づくりを進める	環境にやさしい体験農園の推進・拡大	継続	・農育体験(完全有機肥料・完全無農薬でお米を育てよう)を6回開催した。 [参加者:親子10組] ・NPOと連携しオーガニックによる昔ながらの米作り体験(素手で田植え、刈取り等)を実施した。 [参加者:5回開催 計50組] ・NPOと連携しオーガニックによる野菜栽培の体験コースの設置を検討した。 ・有機農業に取組む農業者を支援した。	環境課 農政課
		にっしんのんびり村の充実と拡大(重複記載 L-2施策7)	継続		
		地域の資源を活用した環境共育(ESD)の推進(重複記載 L-2施策8)	継続		

L. 遊びと学び

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
L-3 環境情報の推進	10、環境情報 の収集管理を行 う	必要な環境情報の リストアップと発 信、管理方法の研 究	継続	・環境に関する情報を広報だけでなく行 政区や自治会に回覧するなどし、幅広 く情報提供できるようにした。	環境課
		市内外の環境情報 ネットワークづくり (重複記載 L-3施 策12)	継続	・環境基本計画パートナーシップ事業に 登録した環境イベントについて、市内外 に情報発信した。 ・県のAELネットに加盟し、市外の環境 情報について情報発信した。 ・生物多様性自治体ネットワークに加盟 し、他市町村と環境情報を共有した。	環境課
		継続的な環境情報 の収集、管理	継続	・希少生物などについて、生息調査を 実施し、必要な情報を定期的に収集し た。	環境課
		人材バンクの創出 (重複記載 K-2施 策4)	新規		
	11、環境情報 誌など紙媒体 で発信する	環境情報誌の定期 的な発行	継続	・環境イベントについてパンフレットを作 成し、小学校に配布した。 ・環境新聞を発行した。[発行回数:3回]	環境課
		環境情報シートの 作成と活用	継続	・にっしんESD普及啓発事業を、広報に て市民に周知した。	環境課
	12、ホー ムページなど電 子媒体で発信 する	ホームページの開 設とコンテンツの充 実	継続	・環境に関する情報(ごみ分別・環境講 座・各種補助金・公害・地球温暖化対 策等)について定期的に更新をし、情 報を発信した。	環境課
		市内外の環境情報 ネットワークづくり (重複記載 L-3施 策10)	継続		
		メールマガジンによ り発信	継続	・環境まちづくりサポートーズ会員など 登録者に環境イベントなどの情報を提 供した。	環境課
	13、環境セン ターを創り育 む	日進市版環境セン ターのあり方の研 究	継続	・エコドームに市民活動支援室を設置 し、環境まちづくり団体の活動を支援し た。	環境課
		エコドーム(中央環 境センター)の企画 展示などの充実	継続	・環境団体が市民活動支援室にて、廃 食用油せっけんづくり教室を開催した。	環境課
		日進市版環境セン ターの開設と充実 化	継続	・エコドームに市民活動支援室を設置 し、環境まちづくり団体の活動を支援し た。	環境課

L. 遊びと学び

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
L-3 環境情報の推進	14、環境イベントで発信する	エコフェスタの開催	継続 完了	<ul style="list-style-type: none"> ・環境まちづくり団体や市内企業と共に、ESDを推進することを目的とした第4回にっしんわいわいフェスティバルを開催した。[参加者:3700名] ・環境まちづくり団体や市内企業と共に、エコフェスタを開催した。[平成17年度～平成27年度:11回開催] 	環境課
L-4 様々な世代の 参加推進	15、子どもの 参加を進める	未来をつくる子ども条例の推進 にっしん子どもエコクラブの推進(重複記載 I-1施策2)	継続 継続	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知学院大学に委託し、子どもたちを対象とした条例普及啓発事業を実施した。 ・子ども条例施行10周年を迎えるにあたり、啓発用のイベント及びフォトコンテストを実施した。 	子育て支援課
	15、子どもの 参加を進める	子ども会活動支援 ユース世代の居場所づくり 子どもの活動の発表の場づくり	継続 完了 継続	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの自主性と社会性を高める活動を行う、子ども会連絡協議会の活動を支援した。 ・平成26年度まで市内の中高生を中心に、祭りやイベントを企画実施し、居場所作りを目的としたじえねぶろ事業を実施した。 ・大学生以下の発表会として、にっしんヤングフェスタ2019を市民会館ホールで開催し、14団体約500名の参加があり、約6,000名が来場した。 	子育て支援課 生涯学習課
	16、大学生の 参加を進める	大学連携の推進 インターンシップ制度の適正な運用	継続 継続	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として29大学と129事業実施。 ・市民協働課としては大学連携事業を始め、各イベントをとおして32事業実施した。 ・市民まつり内の大学連携ブースに4大学が出展し、5団体がステージ出演した。また、30名以上の学生ボランティアが参加した。 ・大学と連携協定を締結し、学生ボランティアなどを市のイベントなどで受け入れた。[新規連携協定なし、継続9大学] ・わいわいフェスティバルで108名学生ボランティアが参加した。 	市民協働課 人事課
	17、子育て 期・壮年期の 参加を進める	子育て中の親子の 交流促進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・にっしん子育て総合支援センターにおいて、子育て親子の交流の場として「あそびの広場」、季節行事を実施した他、毎週土曜日に父親参加企画を実施した。 	子育て支援課

L. 遊びと学び

環境まちづくり プログラム	施策	具体的取り組み	区分	令和元年度実績	所管課
L-4 様々な世代の 参加推進	17、子育て 期・壮年期の 参加を進める	NPO等の子育て 支援活動の活性化	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・にっしん子育て総合支援センターの運営を指定管理者であるNPO法人に委託し、地域子育て支援拠点事業やファミリーサポートセンター事業等を実施した。 ・市民協働課として実績なし [子育てに関する講演会が新型コロナの影響で中止となった。] 	子育て支援課 市民協働課
		子育て支援情報の 充実	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報誌「ふあまっぷ」の発行(四半期ごと)や、子育て支援用HP「WEB版ふあまっぷ」の運営の他、メールマガジンの配信を行った。 ・親世代と祖父母世代をつなぎ、祖父母による孫育てを支援するため「祖父母手帳」を作成した。 ・子育て支援情報充実のため、令和2年度からの第二期日進市子ども・子育て支援事業計画に「子育てアプリ」の導入について掲載した。 	子育て支援課
		おやじの会設立促 進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で独自の事業を実施している。 	環境課 学校教育課
	18、高齢者の 参加を進める	老人クラブ活性化 支援	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブの活動に補助金を出すなどし、活動を支援した。[R元年度:40団体] 	地域福祉課
		コミュニティサロン 事業の推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の要支援・要介護予防や閉じこもり防止のため、各福祉会館にて毎月4回程度コミュニティサロンを実施した。[開催回数:208回、参加人数:延べ4,308人] 	福祉会館
		おたつしやハウス 事業の推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康な生活のために、各福祉会館にて毎月4回程度おたつしやハウスを実施した。[開催回数:218回、参加人数:延べ9,913人] 	福祉会館
		就労機会の拡大	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・日進市シルバー人材センターにて、様々な就労機会の提供をした。 	地域福祉課

参考資料

1. 河川水質調査
2. 河川底質調査
3. ため池水質調査
4. 大気汚染物質調査

河川水質調査(平成29年度～令和元年度)

令和元年度

	類型	pH	BOD (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	DO (mg/l)	大腸菌 (MPN/ 100ml)	ノルマルヒキサン 抽出物質 (mg/l)	全窒素 (mg/l)	全りん (mg/l)	電気 伝導率 (mS/m)	塩化物 イオン (mg/l)	陰イオン界面 活性剤 (mg/l)	水温(°C)
米野木橋	C	7.3	2.5	3.8	4	9.5	5200	<0.5	2.9	0.26	18	19	0.06	18.1
野方大橋		7.5	2.9	3.6	4	9.6	20000	<0.5	2.6	0.23	16	18	0.05	17.6
新大正橋		7.2	4.1	4.5	5	9.6	5500	<0.5	4.0	0.32	21	26	0.06	19.8
岩崎橋		7.3	3.5	3.8	3	9.3	8900	<0.5	2.4	0.31	17	26	0.05	19.5
金剛橋		7.1	1.7	2.3	2	7.7	5000	<0.5	0.7	0.03	8.7	9.6	0.03	18.6
小牛橋		7.2	3.4	4.2	7	8.8	13000	<0.5	3.2	0.23	14	16	0.06	20.0
月花橋		7.1	2.9	3.4	2	8.8	22000	<0.5	2.2	0.27	11	13	0.04	19.2
稻荷橋		7.5	2.2	3.3	3	10.7	7300	<0.5	2.5	0.18	18	18	0.05	18.3
広田橋		7.3	3.4	3.8	2	11.3	7900	<0.5	3.6	0.45	20	16	0.07	18.4
小川橋		7.7	4.1	7.1	3	13.3	16000	<0.5	3.6	0.71	24	32	0.09	25.1

平成30年度

	類型	pH	BOD (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	DO (mg/l)	大腸菌 (MPN/ 100ml)	ノルマルヒキサン 抽出物質 (mg/l)	全窒素 (mg/l)	全りん (mg/l)	電気 伝導率 (mS/m)	塩化物 イオン (mg/l)	陰イオン界面 活性剤 (mg/l)	水温(°C)
米野木橋	C	7.3	2.5	3.9	5.7	10.0	7597	0.5>	2.7	0.3	18.2	17.4	0.1	19.9
野方大橋		7.4	3.0	3.9	4.0	9.5	17150	0.5>	2.8	0.3	16.8	18.3	0.0	20.0
新大正橋		7.2	3.6	4.6	4.3	8.9	15533	0.5>	3.7	0.3	20.3	24.2	0.1	21.5
岩崎橋		7.3	3.2	4.0	6.0	9.5	10650	0.5>	2.4	0.3	16.8	22.0	0.0	20.2
金剛橋		7.1	1.3	2.2	3.2	9.0	6467	0.5>	1.4	0.0	9.5	8.0	0.0	19.8
小牛橋		7.1	3.4	4.0	4.5	9.0	9550	0.5>	3.7	0.2	15.2	16.3	0.1	19.8
月花橋		7.1	3.0	3.6	5.2	9.1	5050	0.5>	2.2	0.3	11.2	11.1	0.0	20.5
稻荷橋		7.4	2.0	3.7	5.3	9.6	6030	0.5>	3.0	0.2	18.2	18.0	0.1	20.2
広田橋		7.3	3.0	4.5	4.8	10.8	4042	0.5>	3.7	0.4	19.0	14.7	0.1	20.3
小川橋		7.2	6.3	8.9	8.7	10.3	6983	0.5>	4.3	0.8	24.8	32.3	0.1	24.8

平成29年度

	類型	pH	BOD (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	DO (mg/l)	大腸菌 (MPN/ 100ml)	ノルマルヒキサン 抽出物質 (mg/l)	全窒素 (mg/l)	全りん (mg/l)	電気 伝導率 (mS/m)	塩化物 イオン (mg/l)	陰イオン界面 活性剤 (mg/l)	水温(°C)
米野木橋	C	7.2	2.6	3.6	2.7	9.9	16567	0.5>	4.0	0.4	21.5	20.2	0.1	18.0
野方大橋		7.4	2.6	3.2	2.8	10.4	13250	0.5>	3.3	0.2	18.0	18.7	0.1	18.4
新大正橋		7.2	3.7	3.9	3.3	10.2	13917	0.5>	3.9	0.3	20.7	24.0	0.1	18.9
岩崎橋		7.2	3.0	2.9	2.5	10.2	11083	0.5>	2.9	0.4	17.5	23.8	0.0	19.5
金剛橋		7.2	1.9	2.0	2.3	9.6	12983	0.5>	0.8	0.0	9.1	12.5	0.0	18.9
小牛橋		7.0	3.3	3.5	2.8	9.2	14075	0.5>	3.6	0.3	14.3	14.3	0.0	18.9
月花橋		7.1	3.1	2.9	1.8	9.3	17783	0.5>	2.3	0.2	10.9	10.9	0.0	19.0
稻荷橋		7.4	2.6	3.5	2.3	10.2	14475	0.5>	2.7	0.2	20.0	22.0	0.0	19.2
広田橋		7.2	3.2	3.3	3.0	10.7	11383	0.5>	4.1	0.4	20.7	17.8	0.1	18.7
小川橋		7.2	3.9	7.9	4.0	10.2	19583	0.5>	4.9	0.6	26.8	39.3	0.1	22.9

備考 BODは測定結果の75%水質値※、その他の項目は年間平均値

※BOD水質値とは、全データを小さいほうから順に並べ0.75×n番目のデータのことをいう。BODの評価についてはBOD75%水質値を用いる。

【表】生活環境保全に関する環境基準(生活環境項目)【河川(湖沼を除く。)】

類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学酸素供給量(BOD)	浮遊物質量(SS)	溶存酸素量(DO)	大腸菌群数
AA	水道1級、自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/L以下	25mg/L以下	7.5mg/L以上	50MPN/100ml以下
A	水道2級、水産1級、水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/L以下	25mg/L以下	7.5mg/L以上	1,000MPN/100ml以下
B	水道3級、水産2級及びC以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L以下	25mg/L以下	5mg/L以上	5,000MPN/100ml以下
C	水産3級、工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L以下	50mg/L以下	5mg/L以上	-
D	工業用水2級、農業用水及びEの欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	8mg/L以下	100mg/L以下	2mg/L以上	-
E	工業用水3級、環境保全	6.5以上 8.5以下	10mg/L以下	ごみ等の浮遊が認められないこと	2mg/L以上	-

(参考)水質汚濁に係る環境基準について(昭和46年12月28日環境庁告示第59号)

用語解説について

水素イオン度(pH)	水素イオンの濃度。pH7を中性とし、数値が小さくなるほど酸性(pH0~7)の度合いが強くなり、値が大きくなるほどアルカリ性(pH7~14)の度合いが強くなります。pHが6.5~8.5の範囲から出ると、河川の生産性が低下し、水処理にも悪影響が出るといわれています。
BOD(mg/l)	生物化学的酸素要求量。水中の汚濁物質(主として有機物)が微生物によって酸化分解されるときに必要となる酸素量、河川の汚濁を表す代表的な指標です。値が大きいほど汚濁の度合いが著しいことを表します。
COD(mg/l)	化学的酸素要求量。水中の汚濁物質(主として有機物)を酸化剤で化学的に酸化するときに消費される酸素量で、海域や湖沼の汚濁を表す代表的な指標です。値が大きいほど汚濁の度合いが著しいことを表します。
SS(mg/l)	浮遊物質量。水中に浮遊又は懸濁している粒形2mm以下の物質の量のことで、微生物などの有機物や無機物などが含まれる。値が大きいほど水の透明度などの外観が悪化するほか、魚のえら呼吸や水中植物の光合成に影響することがあります。
DO(mg/l)	溶存酸素量。水中に溶け込んでいる酸素量のことをいいます。水質の指標として用いられ、値が大きいほど水質は良好とされています。
大腸菌群数(MPN/100ml)	人や動物の糞便には大腸菌が多く存在するため、これを測ることにより糞便による汚染の程度を知ることができます。値が大きいほど汚染が進んでいると考えられています。
ノルマルヘキサン抽出物質(mg/l)	油脂、ワックス、グリスなど酸性でノルマルヘキサンにより抽出される物質の総称で、通常「油分等」といわれており、鉱油、動植物油等の量を表す指標として使われています。油が流出すると、魚介類の死滅や農作物の生育を阻害、油臭の原因となります。
全窒素(mg/l)	環境水中の窒素の化合物の濃度。窒素とともに、水中の栄養塩類として藻類や植物プランクトンの増殖に不可欠な物質ですが、含有量が増加すると富栄養化を促進する原因となり、閉鎖性水域では赤潮やアオコの発生原因となります。
全りん(mg/l)	環境水中のリンの化合物の濃度。水中の栄養塩類として藻類や植物プランクトンの増殖に不可欠な物質ですが、含有量が増加すると富栄養化を促進する原因となり、閉鎖性水域では赤潮やアオコの発生原因となります。
電気伝導率(mS/m)	水の電流の通しやすさを示す指標です。電解質が多いと電流を通しやすく、少ないと電流を通しにくくなります。電気伝導率を測ることで、水の中に不純物として電解質がどの程度含まれるのかを知ることができます。
塩化物イオン(mg/l)	水中に溶解している塩化物の塩素分のことで、排水の混入や希釈度の指標となります。自然水中にはほとんど存在せず、人為的汚濁が進んだ河川ほど高い値を示します。
陰イオン界面活性剤(mg/l)	合成洗剤の有効成分で、水溶液中に電離して主体が陰イオンになるものの濃度です。合成洗剤による著しい発泡や水生生物への影響などの問題から測定するものです。

河川底質調査(平成29年度～令和元年度)

令和元年度

単位:mg/kg

	ヒ素	鉛	カドミウム	全水銀	六価クロム	シアノ化合物	有機リン
岩崎橋	0.5	2.6	<0.05	<0.01	<2	<0.1	<1
米野木橋	<0.5	2.8	<0.05	<0.01	<2	<0.1	<1
野方大橋	<0.5	3	<0.05	<0.01	<2	<0.1	<1
新大正橋	1.2	2.5	<0.05	<0.01	<2	<0.1	<1
金剛橋	1.7	2	<0.05	<0.01	<2	<0.1	<1

平成30年度

単位:mg/kg

	ヒ素	鉛	カドミウム	全水銀	六価クロム	シアノ化合物	有機リン
岩崎橋	0.9	3.5	<0.05	<0.01	<2	<0.5	<1
米野木橋	3.2	3.1	<0.05	<0.01	<2	<0.5	<1
野方大橋	0.7	3.3	<0.05	<0.01	<2	<0.5	<1
新大正橋	2.8	2.6	<0.05	<0.01	<2	<0.5	<1
金剛橋	1.4	4.3	<0.05	<0.01	<2	<0.5	<1

平成29年度

単位:mg/kg

	ヒ素	鉛	カドミウム	全水銀	六価クロム	シアノ化合物	有機リン
岩崎橋	1.1	6.4	<0.05	<0.01	<2	<0.1	<1
米野木橋	0.7	5.5	<0.05	<0.01	<2	<0.1	<1
野方大橋	0.7	3	<0.05	<0.01	<2	<0.1	<1
新大正橋	1.2	2.6	<0.05	<0.01	<2	<0.1	<1
金剛橋	0.7	3.7	<0.05	<0.01	<2	<0.1	<1

ため池水質調査(平成29年度～令和元年度)

令和元年度

	PH	COD (mg/l)	SS(mg/l)	DO(mg/l)	全りん (mg/l)	全窒素 (mg/l)	電気伝導率 (mS/m)
上納池	6.8	8.9	4	5.3	0.08	0.63	7.7
笠寺池	6.9	12	4	6.8	0.12	0.6	7.4
芋地池	8.2	4.4	6	12	0.032	0.9	26
弁天池	7.8	5.3	7	8.4	0.032	0.6	13
海老池	8.5	6.1	7	10	0.05	0.31	8.7
三ヶ峯下池	7.6	5.4	4	12	0.041	0.33	5.1
岩藤新池	6.8	3.6	<1	8.3	0.005	<0.05	4.4
林池	7.5	7.2	4	8.6	0.062	0.45	8.2
三ツ池(野方)	7.8	8.4	7	9.7	0.033	0.42	23
機織池	8.4	3.2	2	9.4	0.014	0.08	7.8
鶴思慕池	5.4	1.6	2	7.2	0.008	<0.05	2.1

平成30年度

	PH	COD (mg/l)	SS(mg/l)	DO(mg/l)	全りん (mg/l)	全窒素 (mg/l)	電気伝導率 (mS/m)
上納池	6.8	2.9	18	6.1	0.041	0.54	9.6
笠寺池	7	16	11	9	0.14	1.4	7.7
芋地池	8.2	5.6	26	11	0.059	0.95	37
弁天池	7.5	4.2	5	7.4	0.027	0.39	16
海老池	7.2	6.1	11	7.9	0.061	0.75	8.9
三ヶ峯下池	6.8	5.6	4	8.8	0.052	0.8	5.5
岩藤新池	6.8	3.2	<1	8.3	0.005	0.16	3.9
林池	7.4	6.6	8	8.3	0.064	0.69	7.9
三ツ池(野方)	7.4	6.4	5	8.2	0.03	0.52	22
機織池	8.1	3.1	5	8	0.057	0.29	10
鶴思慕池	6	1.4	1	7.8	0.009	0.22	1.8

平成29年度

	PH	COD (mg/l)	SS(mg/l)	DO(mg/l)	全りん (mg/l)	全窒素 (mg/l)	電気伝導率 (mS/m)
上納池	6.4	3.8	4	7.3	0.036	0.3	10
笠寺池	6.8	18	14	9.7	0.13	1.7	8.9
芋地池	8.6	4.7	13	12	0.024	0.63	27
弁天池	7.2	3.1	3	5.7	0.027	0.42	13
海老池	7.4	6.2	5	7.5	0.054	0.98	9.6
三ヶ峯下池	7	4.3	4	8.3	0.045	0.45	6.3
岩藤新池	6.9	3	<1	9.5	0.008	0.29	3.5
林池	7.6	6.9	6	9.5	0.054	1	8.4
三ツ池(野方)	7.6	5.2	5	8.7	0.018	0.52	25
機織池	9.2	3.5	6	9.2	0.018	0.49	13
鶴思慕池	6.2	5.3	3	8.3	0.011	0.33	1.9

大気汚染物質調査について

本市では、近くの工場や車から排出された比較的大きな粒子が問題となり、平成27年度まで大気浮遊物質調査と降下ばいじん調査を継続的に測定を行ってきましたが、二酸化窒素、二酸化硫黄及び浮遊粒子物質については、環境基準を達成しており且つ減少傾向を示しています。

現在問題とされているのは、他の国から排出されたものを含むPM2.5などの粒子の小さな浮遊物質です。その対策として国の広域監視システムが整備され、県の大気汚染常時監視の測定結果がホームページで公開されるなど整備が進みました。これにより、本市が行う調査は一定の役割を終えたと考えています。

県の測定局として、本市では五色園とんねる公園と上納池スポーツ公園の2カ所で測定がされています。測定値や統計値などの大気汚染物質調査結果の詳細は、愛知県大気環境情報ホームページをご覧ください。

愛知県大気環境情報ホームページ <http://taiki-kankyo-aichi.jp/kanshi/realtme/>

この年次報告書は、日進市環境まちづくり基本条例第16条に基づき、令和元年度における日進市環境基本計画に位置づけられた環境指標の状況、環境基本計画等の実施状況、環境基本計画等の取組に対する効果について取りまとめ、公表するものです。

令和2年度版
日進市環境基本計画年次報告書

令和3年1月
<発行>日進市
<編集>生活安全部 環境課
〒470-0192 愛知県日進市蟹甲町池下268番地
TEL 0561-73-2896 (ダイヤルイン)
FAX 0561-72-4603
Email kankyo@city.nisshin.lg.jp